

「暮らしの手帖」にみる昭和 20 年代から 平成 10 年代前半までの日用品と生活意識の変化

大 橋 美 幸

1. 「暮らしの手帖」について

「暮らしの手帖」は昭和 23 年に創刊された婦人雑誌であり、衣服、食事、住生活、健康などを取り上げ、当初一冊 110 円であった。年間 4 ～ 6 冊が出版され、100 号を超えるごとに第Ⅱ世紀、第Ⅲ世紀と呼ばれ、平成 26 年 10 月現在、第Ⅳ世紀 72 号（累計 472 号）を数える。

昭和 20 年代から現在まで、その時々暮らしの断面や消費者の考えを読み取ることができ、「暮らしの手帖」に取り上げられた家電製品や住宅設備などから高度経済成長期の住生活をまとめたり^{1,2)}、多様な商品テストを海外と比較する研究³⁾などが行われている。

本稿では「暮らしの手帖」第Ⅰ世紀 1 号から第Ⅲ世紀 100 号までの商品・買い物案内、読者投稿欄を対象とし、昭和 20 年代前半から昭和 40 年代前半（第Ⅰ世紀 1 号から 100 号）、昭和 40 年代後半から昭和 60 年代前半（第Ⅱ世紀 1 号から 100 号）、昭和 60 年代前半から平成 10 年代前半まで（第Ⅲ世紀 1 号から 100 号）の日用品と生活意識の変化をまとめる。

2. 「暮らしの手帖」第Ⅰ世紀 1 号から 100 号

：昭和 20 年代前半から昭和 40 年代前半【表 1、資料 1】

高度経済成長期にあたり「暮らしの手帖」においても電気アイロン、炊飯器、洗濯機など家電製品が徐々に取り上げられていく。

当初は商品や買い物案内があまりなく、「暮らしの手帖」研究室による独自の商品テストがはじまるのは26号からである。ソックス（26号：昭和29年12月）の商品テストでは、当時一足100～200円だった木綿、ナイロン製のソックスを3か月間、小中学生がはいて、3日ごとに電気洗濯機で洗い、穴は開かなかったものの、色がはげるという結果を紹介している。当時の服装について「今日の日本では、どんな山奥の農村へ行つても（中略）、ブラウスにスカートというのがふつうである。だがはきものだけは下駄なのだ」という記述があり、「靴下がまだゼイタク品」とであるとされている。

商品テストはマッチ（27号）、鉛筆（28号）と続き、電気アイロン（29号：昭和30年5月）では、ナショナル、三菱、東芝など12種類の電気アイロンが試されている。アイロンには一部蒸気アイロンもあり、当時850～8000円であった。自動温度調整機能付きをうたったアイロンもあったが、表示温度通りにはならず、半数のアイロンが20分たつと持ち手の部分が熱くなって持てなくなってしまったという結果を紹介している。当時100種類を超える電気アイロンがあり、一家に一台以上、「アイロンは日本全国の家庭の必需品」であった。

そこから10年後の読者投稿欄にも、商品テストにあった持ち手の部分が熱くなってしまうという指摘があり、やけどや夏のアイロンかけへの言及がされている（80号：昭和40年7月）。

電球（32号：昭和30年12月）の商品テストでは、当時1個65円だったマツダ、ナショナル、ヒタチなどの電球が試されている。構造、使用電力、明るさ、寿命などはすべてJIS規格を満たしており、「戦時中は電球も御多分にもれず、ひどいものが多かった」が、全体として品質が良くなってきていると評価されている。

蛍光灯（41号：昭和32年9月）については「昭和15年には、日本ではじめての蛍光灯ができ上がりました」とされ、東芝、三菱、日立、松下、新日本の5社で全生産の95%を占め「作られている数は昭和31年だけでざっと

2000万本、日本中の世帯へ一本ずつ行きわたるほど」と紹介されている。「蛍光灯を使っていると、どうもラジオに雑音が入って困る」という苦情があり、雑音防止用のコンデンサーが入っているものを選ぶように案内されている。

電気カミソリ（41号：昭和32年9月）は昭和23年に国産第一号が出され、当時一台3000円前後だった振動式とモーター式が紹介されている。安全カミソリと比べて、「使用が簡単」、「肌が荒れない」などの良い点があるものの、「よく剃れない」、「音が大きすぎる」、「短期間でダメになる」などの悪い点があげられている。

炊飯器（44号：昭和33年5月）は、「近頃、『電気ガマ』という新しい『ごはんたき』道具が現れてきた」とされ、「月産何万台という相当なブーム」と紹介されている。当時、一台4000円前後であり、新聞広告に「スイッチ一つで火加減の苦労もなく」、「たきあがると自動的にスイッチが切れます」、「ふっくらとおいしいご飯がたちあがります」と記載されていたが、実際に試してみると水加減が難しく、水洗いできない点が問題としてあげられている。

電気トースター（47号：昭和33年12月）は、「パンも、なまのまま、せめて砂糖をつけて、（中略）しだいに焼いてバターやジャムを塗りつけて…というトースト時代に入って来た」、「日本ではトースターはいまや電気ガマとならんで、お台所の『必需品』化しようとする勢いである」と紹介されている。最も普及しているトースターは当時1000円程度、中央のニクロム線をはさんで両側からパンを入れた蓋を閉めるかたちであり、トースターの横側に焼け具合を見るためののぞき穴が開いていた。サンヨー、東芝、ナショナル、日立、富士の5種類のトースターを試してみて、マダラに焼きむらができ真ん中が焦げたりするものの、1日8枚を焼いて1年以上、使用することができたと掲載されている。

読者投稿欄には焼け具合が見えにくい（46号：昭和33年9月）、トースターの外側が熱くなるなどの指摘がされている（56号：昭和35年9月）。数年後

にはパンを横にして焼くトースターの要望も出されている（60号：昭和36年7月）。

ラジオ（44号：昭和33年5月）は、戦前の大きなラジオから変わって「ちょっとポケットにも入るという、オモチャじゃないか」というラジオ、「ちよいと肩から下げて、持って歩けるようなラジオ」があり、プラスチック製の小型で一台約5000円、木製の大型で約2万円から2万5千円と紹介されている。多様なかたちの中から置き場所や使い方によってラジオを選択することが考えられている。

「戦争も終わり、そしてもう14年もたちました。広告を見ていますと、電気センタク機だの、電気冷蔵庫だの、テレビだの、トランジスター・ラジオだのと、電気の機械器具類は、あとからあとからと新しい品が売り出されています」（51号：昭和34年9月）という中で、脱水機の商品テストが紹介されている（53号：昭和35年2月）。「電気センタク機だと、洗うことはもちろん、絞る仕事も、ハンドルをまわすだけ」なのだが、「1枚1枚手でまわさなければならぬ」、「ボタンのついているものは注意しないとひっかかる」、「厚いもの、大きなものは絞りにくく、相当な力がいる」などの問題があり、洗濯機とは別に家庭用の脱水機が販売されていた。形状は現在の洗濯機の円柱式の脱水装置に近く、電動の回転式であった。洗濯機と脱水機が一つになっている型も登場していたが、単独の脱水機よりも性能が劣っていると掲載されている。1年前の読者からの投稿でも自動脱水機を待ち望む声があがっていた（45号：昭和33年7月）。

56号（昭和35年9月）には脱水乾燥洗濯機が紹介されている。洗濯槽と乾燥機付の脱水槽の2槽式であり、縦45.6cm×横75.2cm、当時一台4万5000円。15アンペアの電源が必要であり、当時10アンペアまでの契約の家庭が中心であったため、20～30アンペアへの契約変更が必要であった。乾燥時間は現在とさほど変わらない30～60分程度、乾燥機に不慣れな消費者のために「完全乾燥させますとシワのとれにくいセンイもありますから、

アイロンかけは少ししめっている位のときに」と注意書きがされていたようである。電気洗濯機の普及率が4割であった当時のことである【図1】。

読者投稿欄からは、電気洗濯機が家庭に入ってくる時期にあたり、洗濯機置き場があらかじめ設けられていないため浴室に置かれることもあり(73号：昭和39年2月)、使用説明書を確認しながら操作されていたことが読み取れる(84号：昭和41年5月)。初期の頃から行われていた浴室のお湯の使用は現在と共通しており(40号：昭和32年7月)、読者から希望があった柔軟剤はその後、国内で商品化されている(44号：昭和33年5月)。

掃除機は58号(昭和36年2月)で商品テストが行われている。サンヨー、シャープ、ナショナル、東芝、三菱、日立の8種、当時、1万5000円程度の掃除機が試され、30～70ホンの「たいへんにぎやかな音」、紙袋が1枚12円50銭から19円であり、中のゴミだけを捨てるのが大変、「延長パイプのつぎ手は、どれもおなじで、使っているうちに外れやすい」ことが掲載されている。当時の掃除機の普及率は15%であった【図1】。

読者投稿欄には掃除機のコード巻き取りの評価(54号：昭和35年5月)、スイッチの位置への苦情などがよせられている(59号：昭和36年5月)。

ガス湯沸器は(62号：昭和36年12月)は「栓をひねると、水道とおなじように、いつでも蛇口からお湯が出る、というのがこのガス湯沸器です」とされ、当時、一台8000～1万4000円程度であった。富士、東芝などの5種類のガス湯沸器を試してみて、自動点火式もあり、1分以内に80℃以上のお湯を出すことができ、ガス代がヤカンでわかすより少し安く便利であることが掲載されている。

続けて65号(昭和37年7月)には、「ハンドシャワーといって、ちょうど電話の受話器のような形のシャワーができました。片手にもって、上から下へでも、下から上でも、自分の好きなところが洗えます」、「瞬間湯沸器とこのシャワーの併用をおすすめしたい」と紹介されている。

7年後に読者から、夏にはいつでも使用できるため便利であるが、冬は一

度に使用すると湯温が下がってしまうため利用しにくいという投稿がされている（94号：昭和43年4月）。

冷蔵庫については普及率が3割に近づく中で【図1】、まるい氷がつくれる製氷器（65号：昭和37年7月）なども紹介されている。冷凍食品（63号：昭和37年2月）は「保存するには、冷蔵庫のダイヤルを最もよく冷える目盛りにあわせ、冷凍室へいれます。しかし、この中へいれても、保存できるのは、せいぜい数日間」と掲載されている。

多くのメーカーで冷蔵庫内に冷凍室が付属するようになったのは昭和40年頃である（80号：昭和40年7月）。冷蔵庫は当時一台5万8000円程度であった。冷凍室には自動霜取り装置がついており、内容量は3～10リットル。9種類の冷蔵庫を試してみて、室温30℃の部屋で冷凍食品を入れておくのに必要な-18℃を保つことができたのは約半数であったことが記載されている。なお、昭和40年の冷蔵庫の普及率は5割を超えていた【図1】。

食品では即席ラーメン（57号：昭和35年12月）が紹介されている。「ラーメンに『即席』が登場したのは、2年前、33年です。大阪の日清食品がはじめてうりだした『即席チキンラーメン』がそれです。熱湯をかけただけで、そのまま、おいしいラーメンができる」とされ、一食35円であった。その後、即席ラーメンは普及し、当時、40社近いメーカーが一日40万食を売り上げていた。実際に試してみて「製造年月日が入っていない」、1分でできると包装袋に記載されているが「1分ではムリ」、「油がわるい」ような気がするという記載がされている。

また、当時、販売されていた粉末ジュース（60号：昭和36年7月）が紹介されている。オレンジ、グレープ、パイナップル、ミックスなどがセロハンの袋に1～2人分ずつ入っており、コップ1杯に溶かして飲む。当時、ビンのジュースが30～45円、缶ジュースが40円程度である中で、1人分が5～10円であった。商品テストを行い、ビタミンC含有と表示されていたにもかかわらず、全く入っていないものもあったと記載されている。

加えて、写真のアルバム（65号：昭和37年7月）が「糊のいらないアルバムというのが出ています」と紹介されている。「台紙の上に写真をならべて、このフィルムをかぶせると、写真とフィルムの面が真空になってくっつき」と説明され、当時一冊600円で「残念なのは値段の高いことと、リングとじなのでページを開けると、ひっかかってあけにくい」と記載されている。

74号（昭和39年5月）には電気ミシンが紹介されている。ミシンは昭和39年の普及率が76%であり【図1】、「洋服だんす・三面鏡とならんで、嫁入り道具の三種の神器」であった。「ミシンがはじめて作られてからもう百年以上の年月が流れています。はじめの手まわしがそれでは不便だということで足ぶみ式になり、その足ぶみ式もそろそろ電気ミシンになっていきます」とされ、電気ミシンは当時一台3万円前後であった。足ぶみ式よりも、逆転しないためにはじめての人が使いやすく、厚地のものでも縫いやすいものの、10～20kgと重くかさばることが指摘されている。

当時、読者からは電気ミシンを試してみたが使いにくく、旧式の足ぶみミシンを購入したという投稿がされている（75号：昭和39年7月）。

クーラーの紹介は昭和40年代のことである（95号：昭和43年6月）。サンヨー、シャープ、ゼネラル、ダイキンなどの国産と合わせて、米国製のクライスラー、日本で組み立てが行われているGEの12種が試され、室内の空気の冷え方にむらがあり、室内の音は56～63ホン程度と大きく、本体に蓋付きで付けられた操作盤が使いにくいことが掲載されている。なお、当時のクーラーの普及率は4%であった【図1】。

同時期にテレビについて読者から投稿がされている。朝起きた時にテレビのスイッチを入れ、食事のときも見ながら食べて、夜も寝ながら見ていて消し忘れる様子を「テレビ中毒」と称している（82号：昭和40年12月）。

97号（昭和43年10月）では補聴器が紹介されている。箱型で胸のポケットに入れてイヤホンをさしこむかたち、メガネの耳にかける部分の手前に補聴器が付いたかたちがあり、当時一台1万～3万円であった。実際に高齢者

が試してみて、スイッチのツマミが小さくて音質の調整がしづらい、イヤホンの細い線が切れやすい、高価すぎるということが掲載されている。

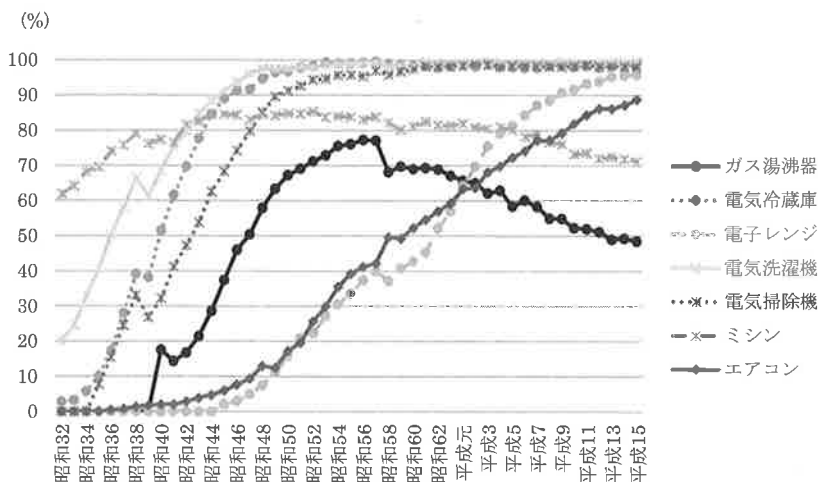


図1 家電の普及率 (1) ー内閣府消費動向調査より

3. 「暮らしの手帖」第Ⅱ世紀1号から99号

：昭和40年代後半から昭和60年代前半【表2、資料2】

冷蔵庫、掃除機、クーラーなどの家電製品が徐々に高性能化し、電子レンジ、ビデオデッキ、CDプレーヤーなど、現在にも見られる日用品が取り上げられている。

冷蔵庫は普及率が9割近く【図1】、第1世紀80号（昭和40年7月）で紹介した冷蔵庫内の冷凍室から、冷蔵庫の上に冷凍庫が付いた2ドア式になっている。6号（昭和45年6月）において6種類の2ドア式冷蔵庫が試され、冷凍庫で冷凍食品を保存するのに必要な -18°C 以下を保っていたのは半数以下であった。2ドア式冷蔵庫は当時一台7万～10万円、消費者物価指数は平成12年を100として31.8であった時のことである【図2】。

読者からは、一週間分まとめて買物をして冷凍室に保存しておくアメリカ

式の生活にあこがれていたものの、冷凍後に食品の味が落ちてしまうためにあきらめたという投稿がなされていた（19号：昭和47年8月）。

食器洗い機（2号：昭和44年9月）は、当時一台5万5000円以上であり「手で洗えば10分くらいですむ仕事を1時間近くかけてしかも不完全に洗ってくれるキカイ」とされていた。電気冷蔵庫くらいの大きさで、家族5人分くらいの食器を洗い、箸やスプーン、椀、小鉢などを除き、皿で5～15%の汚れが残っていたことが掲載されている。8年後に、読者からは類似する食器乾燥機について、カゴが大きいため置き場所に困り、乾燥の時間がかかりすぎて、水切りカゴにしかならなかったという投稿がされている（51号：昭和52年12月）。

掃除機は普及率が6割を超え【図1】、3号（昭和44年11月）に小型化した掃除機が紹介されている。当時一台1万～2万円であり、持ち運びがらくになり、ベルトが付いて肩から下げるかたちになっていた掃除機もあった。

4号（昭和45年2月）には炊飯器が紹介されている。前述した第I世紀44号（昭和33年5月）の時点で水加減が難しいとされていた炊飯器は、セットした時間に炊き上がるようにタイマーが付き、「たいへんよかった、これで炊いたご飯は、ガス釜と炊いたのとくらべて、まけない」、時間はガス釜よりも10分程度よけいにかかるものの、電気代はガス代と比べて高くなく、値段はガス釜よりも4割くらい安いとされている。そのまま保温できるように装置がつけられたが「1時間以上もこの装置を働かせていると、せっかくおいしく炊けたご飯が、まずくなってしまう」とされている。

当時、炊飯器と炊き上がった後のご飯を保存するジャーは別であり、マホービン型の保存容器で、室温5℃の部屋で約4時間程度、60℃以上に保ことができた（3号：昭和44年11月）。10号（昭和46年2月）には一台7000～1万円の電気ジャーが紹介されている。

読者からは電気屋から買い換えをすすめられた話（2号：昭和44年9月）、古い炊飯器が壊れて修理を頼んだところ、部品がなくなっており買い換える

ことになった出来事が紹介されている（16号：昭和47年2月）。

食品では、インスタントみそ汁（2号：昭和44年9月）の食べくらべが行われている。第1世紀61号（昭和36年9月）では2銘柄しかなかったインスタントみそ汁は、赤だし、赤みそ、信州みそ、白みそなど多様な銘柄が売り出されていた。みそは乾燥させてあり、乾燥ネギと麴、ワカメが入っているが、みそに独特のくさみがあり、みそ汁の具がお湯をかけてももどりにくくて固いことが指摘されている。

8号（昭和45年10月）ではレトルトカレーが「近ごろ、インスタントラーメンなみの、カレーがでまわっています」と紹介されている。「平たい、アルミホイルのような袋に1人前ずつ入っていて、この袋ごとに3分間あっためたら、あとは封を切ってごはんにかけるだけでいいのです」、「（ルーだけでなく）肉やじゃがいもなどの野菜も、いっしょに煮込んであります」とボンカレーなどが掲載されている。ボンカレーは180g入りで一袋80円。甘口と辛口があったが「甘すぎる」と評価されている。

12号（昭和46年6月）ではインスタントラーメンの食べくらべが行われている。第1世紀57号（昭和35年12月）で紹介された「即席チキンラーメン」から、しょう油味、塩味、みそ味と種類が増え、「サッポロ一番」、「チャルメラ」、「出前一丁」などが登場している。当時、一食35～50円。「即席ラーメンはやたらとテレビのCMをやる」とされ、1時間に2回半はいずれかのテレビ局でラーメンのCMがされていた。食べくらべてみて、「味の当たりはずれなく、つねに一応の満足がえられる」、「附属のスープの袋があげにくい」などの結果が掲載されている。

当時の読者からは、初期にインスタントラーメンを食べてからしばらく食べていなかったが、ずいぶんおいしくなったと投稿がされていた（13号：昭和46年8月）。

14号（昭和46年10月）では市販のドレッシングが紹介されている。「このところスーパーマーケットや食料品店の棚に、急に目立ちはじめたのが、

サラダドレッシングである」とされ、キューピー、ミツカンなどで、牛乳びんくらいの大きさのものが120～180円、フレンチ、イタリアン、サウザンアイランド、コールスローなど多様な種類がある。同時に「ひとつわが家のドレッシングを作ってみよう」と作り方の紹介もされている。

その他、暖房便座(10号:昭和46年2月)が「<洋風健康暖房便座>(5000円)というのが出た」、「プラスチック製で、洋式便器の馬蹄形の部分、つまり肌の当たる便座にヒーターが埋め込んであって、電気を通じておくと、使う時に温かいという仕組み」と紹介されている。電気代は「弱」で1か月130円で「電気代をみても、決してぜいたくなものではない」が、「トイレに電気をとるコンセントのある家はほとんどない」ため配線が面倒であるとされている。

扇風機(12号:昭和46年6月)は、手や体が金属製の網にふれると自動的に止まる安全装置付きになり、当時一台2万円、「3年前にはじめてストップ扇を出したときは、爆発的な売れゆきだった。現在でも一番よく売れている」と紹介されている。加えて、細かい風量の調整ができ、首振り、首の高さの変更、おやすみタイマーが付いていた。

同じく12号で2段ベッドの紹介がされている。「昨今、二段ベッドを使っているという家が、意外に多いのである」、「6畳と4畳半に親子4人、などというのが当り前で通るような情ない暮らしを余儀なくされている我々にとっては、一人分のスペースで二人寝られるというのは、なんといっても魅力だからである」とされている。

子ども向けのものとしてベビーカー(14号:昭和46年10月)が「ちかごろくベビーバギー」という手軽な乳母車が評判」と紹介されている。折りたたむと長さ1m、巾15cm、重さ3kg、当時5000～1万円程度。外出に便利で、狭い玄関に置きやすいという理由で利用されていた。

読者投稿欄には、乗せられている赤ちゃんが車の排気ガスやほこりを受ける高さになることを不安に思う声がよせられていた(15号:昭和46年12月)。

20号（昭和47年10号）では浄水器が紹介されている。「水道の水がまづくなった。年がたつにつれて川はますます汚れ仕方なく薬をますますぶちこむからだろう」、「水道の水のにおいをとり味をよくする道具だという」とされ、当時850～9000円程度。活性炭の吸着作用により7割以上の塩素を取り除き、カルキのにおいを取ることができた。

また、ヘアドライヤー（35号：昭和50年4月）が紹介されている。「若ものの必需品」であり「ぬれた髪を、このヘアドライヤーで乾かしながら、クシやブラシでクセをのばし、形づけていく」ために利用された。重さは300g、当時、一台3000～4000円程度。40号（昭和51年2月）ではロールブラシ型ヘアドライヤーも6000円前後で掲載されている。

同じく40号ではトースターが紹介されている。第I世紀47号（昭和33年12月）で紹介されたトースターはニクロム線を中央にして、両側からパンを入れた蓋を閉じるかたちであったが、ポップアップ型になり、一台5000～7000円であった

ポットについては42号の読者投稿欄に、マホービンから空気圧力で注ぐポットへ買い換えた紹介がされている。湯沸かし機能はなくヤカンが利用されていた（昭和51年6月）。

これらと同時期に電子レンジ（33号：昭和49年12月）が登場する。昭和49年の普及率は11%【図1】。「夢の調理器」とPRされたため、「焦げ目がつかない」、「火加減ができない」、「料理ムラができる」、「中がよく見えない」、「容器が限られる」と酷評された。読者からは、嫁入り道具に持参したもののあまりうまく使えず、高い買い物だったという投稿がされている（34号：昭和50年2月）。

当時、一台10万円程度であったが、10年後には一台4万～6万円程度になり、4割を超える普及率となった【図1】。「10年前には5人に1人程度だったものが、いまでは3人に1人近くまでが共働き主婦である。仕事をもては、その都合で、あたためればすぐに食べられる食品などを利用することもある

だろう」と手軽なあたため具として再評価され掲載されている（89号：昭和59年4月）。

51号（昭和52年12月）では補聴器が紹介されている。第Ⅰ世紀96号（昭和43年8月）の箱型、メガネ型に加えて、耳かけ型が登場する。箱型が「全体の7割を占めていましたが、ヒモがなく小型で目立たない耳かけ型が年とともにのびてきて、これが現在は4割まで占めています」とされている。一台2万～6万円程度であった。「補聴器はボックスのを買ったんだけど、恥ずかしくてね。（中略）ヒモのあるのをつけていったんです。そうしたら、あとから、ある人が荒垣っていうのは会議の最中に野球放送をきいてるって、ひどい審議委員だって陰口をきかれて。それで耳かけ型を買ったんです」、「高齢化社会になって、外へ出ていく老人はふえてきたのに、それに対応するものが、どの面でも非常に遅れてますね」などの高齢者の意見が紹介されている。日本は昭和45年に高齢人口比率が7%を超え、高齢化社会となっていた。このような高齢者向けの日用品は第Ⅲ世紀の「暮しの手帖」に多く登場するので後述する。

57号（昭和53年12月）では壁取り付け式石油温風ヒーターが紹介されている。「6、7年ぐらい前からあったが、燃料はガスが中心だった。（中略）石油の温風ヒーターが売り出されると、ガスの半分、電気の5分の1という燃料費の安さが人気を呼んで、ここ2、3年急に売れ出した」とされている。家具調で10万～15万円程度であったが、2年後に壁取り付け式でない石油ファンヒーターが6万円台で紹介されている（69号：昭和55年12月）。

クーラー（60号：昭和54年6月）は1/3以上の家庭に普及し【図1】、自動調整装置付きになっている。第Ⅰ世紀95号（昭和43年6月）に室内音56～63ホンであったクーラーは40～45ホンと静かになり、おやすみタイマーが付き、自動的に風の強さや室温を調整するボタンが付けられていた。一台18万円程度、消費者物価指数は平成12年を100として69.8であった【図2】。当時の読者から、夏のボーナスの大半をはたいて買うという投稿がされてい

る（61号：昭和54年8月）。

洗濯機（62号：昭和54年10月）は普及率が99%となり【図1】、全自動洗濯機になっている。節水コースがもうけられ「いままで自動の便利さで売っていたが、最近、全自動センタク機を使えば二槽式よりずっと水が節約できる」と紹介されていた。当時、一台6万円程度であった。読者からは風呂の残りが使えない、二度洗いができないなどの指摘がされている（63号：昭和54年12月）。

他に、77号（昭和57年4月）では小学生低学年向けの飛び出す筆箱が紹介されている。カラフルな絵が描かれた蓋がいくつもついており、ボタンを押すとペン皿がバネ仕掛けで飛び出したり、鉛筆削りやホッチキスが付いていたりする。当時、一個1000～2000円程度であった。読者からは鍵付きの筆箱（20号：昭和47年10月）、派手な筆箱を苦々しく思っているという投稿がされている（78号：昭和57年6月）。

82号（昭和58年2月）ではデジタル式電子血圧計が「近ごろ、家庭用の血圧計がよく売れているという」と紹介されている。当時、一台2万～4万円程度であった。ナショナル、シャープ、オムロンなど、東京都内のデパートで比較的良好に売れている7種類の機種を試してみたところ、精度に違いがあるものの、どれも実用的であったと掲載されている。

電子体温計（94号：昭和60年2月）については「2年前に、2000円台という＜破格に安い＞商品」が出たと紹介されている。テルモ、オムロン、東芝などがあり「早く計れる」、「体温が数字で出る」、「ガラスのように粉々にならない」などと紹介されている。読者からは「あまり期待していなかったが思いがけずきちんとした商品」という投稿がされている（95号：昭和60年4月）。

87号（昭和58年12月）ではビデオデッキが紹介されている。「今年の国内向け生産台数は、去年の50%増の350万台、すでに持っている家の割合は、2割の線を越えたという。ねだんも10万円台のものが中心」とされ、実際

には定価より安く販売されていた。ベータ式、VHS式の2種類があり、リモコンはワイヤレスのものが登場していた。

他方で、CDプレーヤー（94号：昭和60年2月）が「直径が、12cmである。形は円盤だが、これまでのLPレコードにくらべて、面積で6分の1以下」、「LPレコードは両面で45分ぐらしか入らないが、CDは片面で70分以上音楽を鳴らすことができる」と紹介されている。当時、一台10万円程度であった。

同じ頃、パソコンについて電気製品の展示会で見たという投稿がされている。関心を持たれていたものの、まだ買われるようにはなっていない様子がわかる（94号：昭和60年2月）。

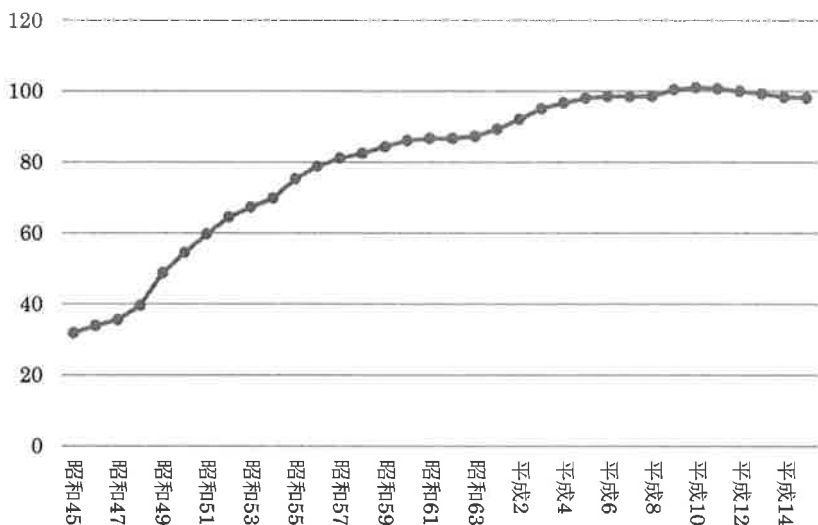


図2 消費者物価指数

4. 「暮らしの手帖」第Ⅲ世紀1号から100号

：昭和60年代前半から平成10年代前半まで【表3、資料3】

使い捨てカメラ、デジタルカメラ、携帯電話などが登場すると同時に、高齢化社会を反映して、高齢者向けの商品が紹介されている。

炊飯器（1号：昭和61年2月）は多機能マイコン炊飯ジャーが登場する。当時、一台2万5000～3万円程度。水に浸しておく時間がなくてもすぐに炊け、火加減を自動的にコントロールできたが、炊き込み・おこわ・玄米・おかゆなどを炊き分けは難しかったことが掲載されている。

読者からは表示の多さに驚き、機能の少ないものを選びたいという投稿がされている（2号：昭和61年6月）。

炊飯器は、その後、63年秋に電磁加熱するIH炊飯器が出され、55号（平成7年4月）に「IH炊飯器はヒット商品となり、今では保温できる炊飯器の4割を占めるようになった」と紹介されている。IH炊飯器は当時、4万～5万円、従来の電気炊飯器の4～5倍、ガス炊飯器の3倍の価格であった。

エアコンは普及率が半数を超え【図1】、インバーターエアコン（2号：昭和61年4月）が紹介されている。この4年ほど前に、外気の熱を利用して室内を暖めるヒートポンプに、部屋の温度によって冷暖房の力を自動で調整するインバーターをつけたエアコンが登場したとされている。当時、一台30万円前後、消費者物価指数は平成12年を100として86.7であった【図2】。

電子レンジも同様に普及率が半数を超え、オープン付き電子レンジ（7号：昭和62年2月）が掲載されている。「ものをあたためる道具として、市民権を得た」電子レンジに「電子レンジではつかない焼色をつける」オープンを同居させたものであり、当時、一台4万2500円。電子レンジとしても、オープンとしても使用することができ、電子レンジとオープンを組み合わせて使用する冷凍グラタンなどに便利で、天ぷらなど電子レンジでは衣がもろくなってしまうものに役に立つと紹介されていた。

この頃、電子レンジ調理用インスタント食品が販売されている。ご飯（赤飯、中華おこわ、山菜釜めし、えびピラフ）、おかゆ（中華がゆ、梅じぞがゆ、玄米あずきがゆ）、めん（ソース焼そば、五目焼そば、五目ビーフン）、蒸しパン、ケーキ、ポップコーンなど多様なメニューが紹介されている（2号：昭和61年4月）。

カメラでは、7号（昭和62年2月）に全自動オートフォーカスカメラが紹介されている。「撮りたいものにカメラを向ければ、誰でもピントの合った写真が撮れる…そんなカメラが誕生して、そろそろ10年になる」とされ、当時、一台5万5000円前後であった。フィルムを入れると自動的に1コマ目に送り、撮り終わると自動巻き戻しをする。自動的にフラッシュが光り、広角・望遠機能が付いていた。読者からは子どもの入学式ではじめて使用した話が投稿されている（8号：昭和62年6月）。

21号（平成元年8月）に家庭内の電話の子機が紹介されている。呼び出しや内線通話ができ、電話を取り次ぐときには便利であるが、「この手順がまた、煩雑で面倒なのです。説明書を一回読んだくらいでは、とてものみこめません」とされている。読者からは子どもが欲しかったものの、あまり便利にならないためにあきらめたという投稿がされている（22号：平成元年10月）。

電話のワイヤレス子機を利用したPHSは59号（平成7年12月）に紹介されている。

23号（平成元年12月）に大型テレビが紹介されている。「ビデオの普及率が5割をこえた。ビデオテープを貸し出す店も多くある」、「ビデオカメラの人気も高い。子どもの運動会や家族旅行をとってテレビに映し、家中みんなで楽しめる」という中で、29インチの大型テレビは当時、一台20万円以下のものがあつた。ブラウン管のテレビは40kg以上であり、ビデオデッキなどを入れる専用台が付属していた。なお、カラーテレビの普及率は昭和40年代に半数を超え、昭和50年代に99%以上になり、29インチ以上の大型テレビも平成4年には3割に達していた【図3】。

ポット（24号：平成2年2月）は湯沸かしができるものになった。「マホービンではないけれど、いつでも使えるお湯が手許にあることはいい」が、ヤカンよりも湯沸かしに時間がかかり、保温するために一日20円かかり電気代がかかるとされている。当時、マホービンの3倍の1万5000円程度であった。

読者からは「電気コードを差し込まない限り、保温も、お湯をそそぐこともできない」ので使わなかったという投稿がされている(25号:平成2年4月)。

64号(平成8年10月)にはカルキ抜き機能付きの湯沸かしポットが2万2000円前後で紹介されている。

28号(平成2年10月)に電動歯ブラシが紹介されている。「健康清潔志向の時代だという。電動歯ブラシは、そんな流れにのって、このところ各メーカーが宣伝に力を入れている商品である。今年の販売数は100万台近くが見込まれている」とされ、一台4000～1万円程度であった。充電式、乾電池式があり、試してみた8割が「これからも電動歯ブラシを使ってみたい」と答えていた。

この頃に使い捨てカメラ(33号:平成3年8月)が紹介されている。写ルンですなど、パノラマ付きの24枚撮りで1500円。パノラマプリントは90mm×250mmの横長の写真ができる。ちなみに当時、現像代が400円程度、同時プリントが1枚70円程度で、合計2000円程度であった。

38号(平成4年6月)に使い捨てコンタクトレンズが紹介されている。一週間連続装用した後に廃棄するもので、一年契約で6万～8万円であった。

平成に入ってMDプレーヤー(42号:平成5年2月)が登場する。「CDが発売されて、ちょうど10年たった。音の良さ、聴きたい曲がすぐ出てくるなどの扱いやすさが受けて、それまでのレコードにとってかわった」という中で、CDよりも一回り小さく、録音ができるものとして「昨年秋から」MDが販売されるようになったとされている。

53号(平成6年12月)に石油ファンヒーターが紹介されている。「石油ファンヒーターが随分売れている。この10年で、あわせて3000万台」とされ、一台3万5000円前後であった。石油ストーブのにおいとおさえられ、温度調整が細やかにできるようになり、自動消火などの安全装置を備えていた。

59号(平成7年12月)に電動自転車を紹介されている。「去年から今年にかけて、新しいタイプの自転車があいついで出てきた。電気力でペダルを

軽くしてくれる、坂道でも楽々と上れる」とされ、一台13万5000円程度であった。読者からはスクーターから買い換えた話が紹介され(60号:平成8年2月)、楽であるが、充電が不便で高価であり、車体が重いなどの指摘がされている(83号:平成12年12月)。

洗濯機(63号:平成8年8月)はドラム式洗濯機が紹介されている。幅60cm×高さ85cm×奥行63cm、一台20万円。6kg洗えて、使う水は93リットルと節水型なみであった。洗濯時間が長く、使う洗剤が限られるなどの問題点が掲載されている。読者からは息子からボーナスで買ってもらう話があるものの、一人で使うには大きいという投稿がされている(64号:平成8年10月)。子育て終了後の家庭には容量が大きすぎるということが読み取れる。

67号(平成9年4月)では家庭用生ゴミ処理機が紹介されている。処理量は一日1.2kg、微生物分解型で一台6万から15万円であり、青梅市で出されていた上限5万円の補助金と一緒に掲載されていた。

デジタルカメラ(74号:平成10年6月)は「10年前、富士写真フィルムの手で生まれ(中略)、去年は全世界で200万台、今年度はさらにふえて400万台が売れると予想される人気商品となりました」と紹介され、一台3万～9万円。専用プリンタも販売されていた。読者からは年賀状の作成に利用するために購入するという投稿がされている(75号:平成10年8月)。

パソコンについては78号(平成11年2月)にワープロから買い換えたという投稿がされており、2年後の92号(平成13年6月)にはインターネットや高齢者向けのパソコン教室の話が紹介されている。

同じ頃、ワープロなどの使用で漢字が書きにくくなり、電子辞書を購入する話が投稿されている(91号:平成13年4月)。

81号(平成11年8月)では耳式体温計が紹介されている。1～3秒で体温をはかることができ、一台6000～1万2000円程度であった。

85号(平成12年4月)ではDVDプレーヤーが紹介されている。「DVDの出たころ、プレーヤーは8万円から10万円もしたし(中略)、いまは3万円

台で帰るようになった。映画を中心にしたソフトは、いまではざっと4000タイトル」とされていた。

食品では、松茸ごはんの素（10号：昭和62年8月）が紹介されている。「デパートや駅ビルの名店街やスーパーで＜松茸ごはんの素＞＜松茸釜飯の素＞というのを売っています」とされ、炊き込みご飯の具が箱や袋に入っており、3合炊きで当時、300～1000円前後であった。

39号（平成4年8月）に即席漬物の素が紹介されている。「手軽に漬けものできるという商品がよく売れているといいます。一つは『浅漬けの素』といって、しょう油、塩、砂糖、酢、調味料、香辛料などをまぜあわせた調味液で、いくつかのメーカーからでています」とされ、ぬか床とともに掲載されている。

57号（平成7年8月）に低温殺菌牛乳が「このところ、スーパーの牛乳売り場で、低温殺菌の牛乳が目につくとおもいませんか」と紹介されている。殺菌方法によって風味が異なるため、好きなものを試してみるようにすすめられている。

100号（平成14年10月）に無洗米が紹介されている。平成3年に売り出された無洗米は、年間約60万トンが生産され、「精白米のおよそ1割は無洗米というほど」になっていた。無洗米の方が少し安く、ビタミンB1などの栄養分がやや多いことが掲載されている。

他方で、高齢者向けの商品として、補聴器は、第Ⅱ世紀51号（昭和52年12月）の箱型、メガネ型、耳かけ型に加えて、4号（昭和61年8月）にカナル型が紹介されている。カナル型は耳の穴に合わせてオーダーメイドで作成し、穴の中におさまるかたちで当時、片耳で9万～15万円。試してみて「不便を感じながらも、対面や体裁を考えて、補聴器をつけるのをためらっていた人」には良く、「スポーツなど激しい運動をしても安定している」とされている。読者からは「小さくて耳の中へ入ってしまって目立たないほど、というのはとても魅力です」と購入を考えている投稿がされている（5号：昭和61年10月）。

加えて51号（平成6年8月）では新しいタイプの補聴器として、騒音の中で人の声を聞きとりやすくするなど「音を加工する部分を、デジタル信号にして、コンピューターで細かく調整する」デジタル補聴器が紹介されている。当時はまだ実用化されていなかったが、現在では通常に市販されている。読者からは数年前の補聴器に落胆したものの、再挑戦してみようという投稿がされている（52号：平成6年10月）。

5号（昭和61年10月）には腕時計型心拍計が紹介されている。当時、一台1万円前後で、普段は腕時計として使用することができた。4機種を試してみても、やや不正確であり、高齢者にはボタンが小さく、数字の表示も見えにくいとされている。

23号（平成元年12月）には電子万歩計が紹介されている。「4年前は、ほとんど1社だけで作っていたようなものでしたが、いまでは十数社が売っています」とされ、当時、一台3000～5000円程度。ほぼ正確であり、カロリー計算などの機能も付いていた。

31号（平成3年4月）にはオーダーメイドではない既製の老眼鏡が紹介されている。オーダーメイドの老眼鏡が2万～4万円であるのに比べ、価格は10分の1であり、ディスカウントショップに揃っている。複数の既製の老眼鏡を持ち、自宅と職場、読書用と外出用などへの使い分けがすすめられており、翌号には、読者から実際にディスカウントショップで購入した体験談が投稿されている（32号：平成3年6月）。

手すりでは51号（平成6年8月）に洋式トイレに置くタイプが紹介されている。一台1万～1万5000円であり、トイレ使用時の立ち上がり、座位保持に使用する。

62号（平成8年6月）には脂肪率計が紹介されている。体重計と一緒にしたもの、両端を左右の手で握ってはかるものの2種類があり、一台2万～2万5000円であった。読者からはデパートで購入し、一日に何度も測定しているという投稿がされている（63号：平成8年8月）

同じ頃（62号：平成8年6月）に歯間ブラシが「歯と歯の間を掃除する道具」として紹介されている。「以前は歯医者さんか、大きな薬局ぐらいでしか手に入らなかったのですが（中略）、このごろはデパートやスーパー、薬局はもちろんのこと、コンビニのようなところにもおいてあって、銘柄もたくさんあります」とされていた。1本あたり50～240円であった。

76号（平成10年10月）には「わが家のナースコール」として家庭用緊急通報システムが紹介されている。小電力型ワイヤレスコール受信器とワイヤレス小型ペンダント発信器、ワイヤレス浴室発信器からなり、合計4万円程度であった。電波の届く範囲は40m、発信器を押すと受信器のランプが光り、チャイムが鳴るしくみである。

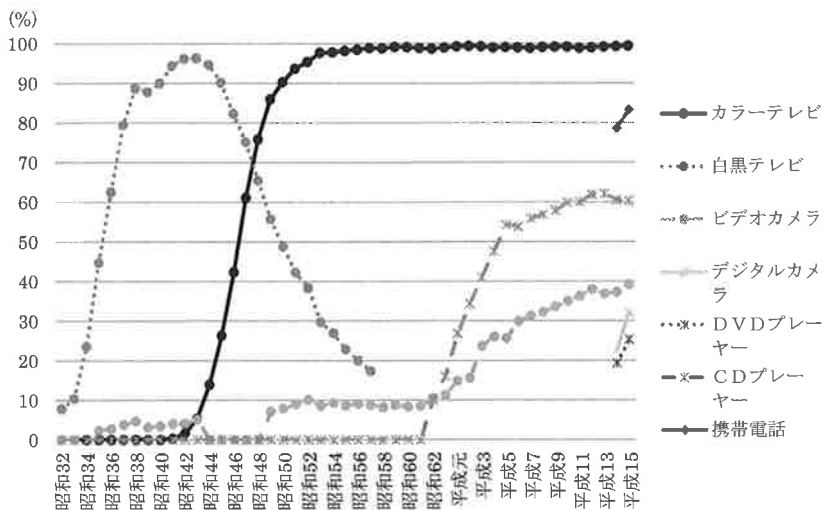


図3 家電の普及率 (2) —内閣府消費動向調査より

5. まとめ

平成20年代前半から昭和40年代前半は高度経済成長期にあたり、電気アイロン、炊飯器、洗濯機、掃除機、冷蔵庫などが順に家庭に普及していく様子が読み取れる。置き場所がない、使用説明書を見ながら操作しているなど、導入初期のとまどいの状況がわかる。生活者の意識として、便利さの中でさらに技術発展を求めたり、逆に夢中になりすぎていると不安になったりされている。

昭和40年代後半から昭和60年代前半は、9割以上の家庭に入った冷蔵庫、洗濯機などが高性能化し、クーラー、電子レンジなどが普及しはじめる様子が読み取れる。便利にしようとしたのだが期待どおりでなかったり、旧式をなつかしむ声があがっている。ボーナスの大半をはたいて家電製品を購入したり、嫁入り道具として持参された例が紹介されている。

昭和60年代前半から平成10年代は、使い捨てカメラから全自動カメラ、デジタルカメラ、家庭内の電話の子機から携帯電話、CDプレイヤーからMDプレイヤー、DVDプレイヤーなどというように、現代にもある日用品に移り変わっていく様子が読み取れる。同時に、高齢化社会を反映してデジタル補聴器、既製老眼鏡、手すりなど高齢者向けの商品が紹介されはじめている。

写真入りの年賀状が自分で印刷できるなど家庭でできることが増えると同時に、多機能に驚いてシンプルなものを選ぼうとされている。新しい家電製品は子育てを終えた家庭で一人で使うには大きすぎたり、パソコンなどで漢字が出てきにくくなるような不安を感じられている。

高齢者向け商品の高性能化、既製品化は、従来の商品に落胆していた高齢者に再度購入を検討させるようになっている。加えて、高齢者向けのパソコン教室、表示の拡大機能など、高齢者への配慮が進められており、高齢者に選択されている。

文献

- 1) 梅原清子：『暮しの手帖』にみる高度経済成長期の住生活、和歌山大学教育学部紀要 教育科学 53、pp.151-163、2003年
- 2) 梅原清子：『暮しの手帖』にみる経済大国化の住生活、和歌山大学教育学部紀要 教育科学 54、pp.183-193、2004年
- 3) 岸洋子：商品テスト誌の日独比較と今後の課題、千葉大学 公共研究 3(4)、pp.221-250、2007年

表1 第I世代の商品・買い物案内

★は商品テスト。

商品種類名等は「暮らしの手帖」に掲載されたものから現在の名称に合わせて一部修正している。

号数	食料品	衣服	家電	その他	出版年月
1号					昭和23年 9月
2号					昭和24年 1月
3号					昭和24年 4月
4号					昭和24年 7月
5号					昭和24年 10月
6号					昭和24年 12月
7号					昭和25年 4月
8号					昭和25年 7月
9号					昭和25年 10月
10号					昭和25年 12月
11号					昭和26年 1月
12号					昭和26年 6月
13号					昭和26年 9月
14号					昭和26年 12月
15号		洋裁			昭和27年 3月
16号		男子服			昭和27年 6月
17号					昭和27年 9月
18号					昭和27年 12月
19号					昭和28年 3月

号数	食料品	衣服	家電	その他	出版年月
20号				石けん	昭和28年 6月
21号					昭和28年 9月
22号					昭和28年 12月
23号					昭和29年 3月
24号		コルセット			昭和29年 6月
25号					昭和29年 9月
26号		★ソックス			昭和29年 12月
27号		既製服		★マッチ	昭和29年 12月
28号				★鉛筆	昭和30年 2月
29号			★電気アイロ ン	コーモリ傘	昭和30年 5月
30号				★安全かみそり	昭和30年 7月
31号	★しょう油				昭和30年 9月
32号			★電球		昭和30年 12月
33号					昭和31年 2月
34号	★天ぷら油	ブラウス		ヤカン、しょう油つぎ、泡立 て器	昭和31年 5月
35号	★お米		電気洗濯機、 ジャー	時計、ナベ、皮むき器	昭和31年 7月
36号		★「ちぢまない」 セーター			昭和31年 9月
37号		★ナイロン靴 下		靴、流し	昭和31年 12月
38号		婦人既製服		鉛筆けずり、台所道具、のり	昭和32年 2月
39号		★コドモの運 動靴		ミシン、錠前、ガラスみがき 粉、接着テープ	昭和32年 5月
40号		スリッパ	プラグ、コンセ ント、スイッチ、 ★電池	殺虫剤、洗濯のり、板の間の ワックス	昭和32年 7月
41号			蛍光灯、電気 かみそり	ガラス、★歯ミガキ	昭和32年 9月

「暮らしの手帖」にみる昭和20年代から平成10年代前半までの日用品と生活意識の変化 27

号数	食料品	衣服	家電	その他	出版年月
42号				ガス・ストーブ、★体温計、バケツ、ベッド、鏡、アルミ箔	昭和32年12月
43号	パン				昭和33年2月
44号	牛肉		★電気炊飯器、ラジオ	たわし	昭和33年5月
45号			トランジスタラジオ、タイマー	★中性洗剤、カーテン生地	昭和33年7月
46号	カレー粉			★接着剤、ハカリ、ペンキ	昭和33年9月
47号	ハム、ベーコン、ソーセージ		★電気トースター	障子紙、紙とじ器、組立家具	昭和33年12月
48号			ステレオ	石けん、口紅、魚焼きアミ、	昭和34年2月
49号	ソース、小麦粉			★クレヨンとパス、目ざまし時計	昭和34年5月
50号	マヨネーズ		★自動アイロン、換気扇	タオル、戸車	昭和34年7月
51号	酢		照明器具、★自動アイロン、殺菌灯	★歯ブラシ、シーツ、ナベ、	昭和34年9月
52号	マカロニとスパゲチ	肌着		★ガス・テーブル、毛布、メガネ	昭和34年12月
53号	即席コンソメスープ	背広	★脱水機	万年筆、炊事手袋	昭和35年2月
54号	ベーキングパウダー	レインコート		ベニヤ板、魚焼き器	昭和35年5月
55号	ゼリー		配線器具	合成洗剤、魚焼き器	昭和35年7月
56号	ホットケーキの素		脱水乾燥センタク機	掃除用具シャワーノズル、★ベビーカー、フェルトペン	昭和35年9月
57号	即席ラーメン			★石油ストーブ、敷物、ケットル	昭和35年12月
58号	インスタント食品	学生服、妊婦用スラックス	★電気掃除機	ボール、カン切り	昭和36年2月
59号	カレー缶詰	ハンドバック、ナイロン靴下		★卓上マホービン、床にはるタイル、汽車レールセット、センタクハサミ	昭和36年5月
60号	粉末ジュース	サングラス、ハンカチ	★電気センタク機、電気釜	ガラスのコップ、パイエル全曲、ハーフメードのオモチャ	昭和36年7月
61号	即席しるこ、インスタントみそ汁	おむつカバー		腕時計、★家庭用消火器、スプーン、ドライバー	昭和36年9月

号数	食料品	衣服	家電	その他	出版年月
62号	さけ			ハンガー、型紙、★ガス湯沸器、すまいの洗剤、盆、ふとん、接着剤、時計	昭和36年 12月
63号	冷凍食品		★スチームアイロン、ステレオ	オモチャ、ランドセル、哺乳びん	昭和37年 2月
64号	マーガリン		センタク機、タイマー	旅行カバン、くし、インク、センタク板、組み立て玩具、しろう油つぎ	昭和37年 5月
65号	アイスクリーム		★自動トースター、電球	防水スプレー、カーテンレール、爪切り、製氷器、ハンドシャワー、アルバム、物干し	昭和37年 7月
66号	インスタントコーヒー		センタク機	フライパン、★石油コンロ、石けん、アイロン台、湯温計	昭和37年 9月
67号	味しょう油	スラックス		★石油ストーブ、大工道具、針、ボール	昭和37年 12月
68号	即席スープ			★ボールペン、スポンジタワシ、カメラ、マホーびん	昭和38年 2月
69号	乳酸菌飲料、ラード	繊維ポリプロピレン		灰皿、パフ、おむつ用の洗剤	昭和38年 5月
70号	コーヒー牛乳	防水加工	★扇風機	中性洗剤、アイロン台、塗料、腕時計、キリ吹き、紙皿・アルミ皿	昭和38年 7月
71号		靴下	せんたく機	★ベビー石せん、粘着テープ、おろし、だっこバンド	昭和38年 9月
72号	フィッシュソーセージ、即席ご飯			手袋、むし器、洗濯洗剤	昭和38年 12月
73号		ハンカチ	★トランジスター時計、センタク機	寒暖計、炊事手袋、全身鏡と三面鏡	昭和39年 2月
74号	即席カレー		★電気ミシン	トイレットペーパー、★ガスコンロ、洋服ブラシ	昭和39年 5月
75号	即席うどんそば		★電気カミソリ	コーモリ傘、製氷皿、三角定規、靴のクリーナー	昭和39年 7月
76号	砂糖、プリンの素、煮干し		★スライド映写機、電気冷蔵庫の自動霜取装置	砂時計、椅子	昭和39年 9月
77号		★男の靴、ナイロン靴下	★電気あんか	プチナイフ、ナベ	昭和39年 12月
78号			電気冷蔵庫	★ガス釜、ヘルスメーター、茶こし、鉛筆、石油ストーブ、時計	昭和40年 2月

号数	食料品	衣服	家電	その他	出版年月
79号	肉料理のカン詰		★脱水機つき センタク機、 太陽熱利用 温水器、テス ター	ストロー	昭和40年 5月
80号	トマト、アイス クリームの素、 即席たんめん	ランニングシ ャツ	★電気冷蔵 庫	防水時計	昭和40年 7月
81号	牛乳			★卓上マホービン、★マッチ、 吊り下げフック、スリッパ	昭和40年 9月
82号				障子紙、ナイロンたわし	昭和40年 12月
83号	魚、いちごジ ャム		蛍光灯スタン ド	センタク洗剤	昭和41年 2月
84号	★しょう油、コ コア	★ワイシャツ	★脱水センタ ク機	コップ、時計	昭和41年 5月
85号			★電気掃除 機	食器、はさみ、フライ返し、 スプレー式せんたくのり	昭和41年 7月
86号	おかずパン	ジャージ	ステレオ	携帯用置き時計、 椅子カバー、レコード	昭和41年 9月
87号	お茶		★家庭用電 動工作道具、 電気温蔵庫	くずかご、 じゅうたん用簡易モップ	昭和41年 12月
88号	即席クリーム		電気保温鍋	★魚焼き器、ユニットバス、 万能鍋、子ども用クリーム、 モップ、台所用洗剤、野菜切 り器、エチケツブラシ、ワン タッチ水栓、ナイロン砥石	昭和42年 2月
89号	ポッカレモン		卓上スタンド	化粧品、油こし	昭和42年 5月
90号			★スチームア イロン	洗濯用洗剤、栓ぬき、小銭 入れ	昭和42年 7月
91号		男の靴		シーツ、巻尺、サインペン、折 り畳みベッド	昭和42年 9月
92号			★換気扇	じゅうたん、まないた、保温 弁当箱、カーテンレール	昭和42年 12月
93号	即席スープ	タイツ、合成 繊維	電気アンカ	★ガス湯沸器、目地止めの コーキング材、はさみ不要の パンソーコー	昭和43年 2月
94号	砂糖	防水加工	ハンディク リーナー	★鉛筆けずり器、鍵	昭和43年 4月
95号			★クーラー	住宅用洗剤、ルーペ、シャ ワー、カーテン	昭和43年 6月
96号					昭和43年 8月
97号	卵、魚			テフロン加工フライパン、★ 補聴器	昭和43年 10月

号数	食料品	衣服	家電	その他	出版年月
98号	ゆであずき、 パイ皿	ランニングシ ャツ、オーバ ー、ズボン	据え置き式ヒ ーター、卓上 スタンド、保 温器	食器洗い機、★石油ストー ブ、鉄板、 台所用洗剤、こし器、油差 し、テプラ、毛バタキ、マンシ ョン	昭和43年 12月
99号	米ぬか油、ミ ートソースのカ ン詰	オムツ	★自動トース ター、食器洗 い機、★クー ラー	洗濯糸くずネット、ショッピ ングカート、三面鏡	昭和44年 2月
100号	ピザパイ	帽子		ハカリ、マホーびん、ズボン 吊り、びんの栓	昭和44年 4月

資料1 第I世代の投稿欄からみる生活意識

一部抜粋

【電気アイロン】

「アイロンは底だけが熱ければ用が足りるものです。上部のほうが悪くなければ、私のようなソソッカシ屋はやけどが少なくなるし、夏のアイロンかけも、ずい分ラクになるでしょう」(80号：昭和40年7月)

【電気トースター】

「ほどよく焼けるとポンととびだすトースターがありますが、あれは別として、ふつうのトースターは焼け具合をみることができません(中略)。フタをあけたり、スイッチを上げたりして、やけ具合をみなくてもすむように、耐熱ガラスの小窓を、適当なところにつけるとか、何とかよい方法を考えていただきたいと思います」(46号：昭和33年9月)

「外側に熱がつたわらないトースターはできないのでしょうか」(56号：昭和35年9月)

「パンをヨコに入れるトースターがほしいと思います。ヨコに入れるのですと、パンにチーズやバター、ソーセージをのせて焼くことができます」(60号：昭和36年7月)

「35年に1台購入。それが昨年暮に焼けなくなり、修理に出した。妻の仰せに従いとりに行ったら800円とられた。翌日から悪戦苦闘がはじまる。パンを入れ、頃合いを見はからってとり出そうとすると、つかえてしまって何も出てこない。箸を使ってやっと出してみると、パンは片側だけ焼け他方の面は真白(中略)。ついに1か月で手をあげた。そこでまっ先に音をあげた妻が、今度はサンヨーの製品を980円で買ってきた(中略)。それにしても、夢々修理だけはウカツにすまじきものと肝に銘じた」(100号：昭和44年4月)

【洗濯機】

「洗濯をするとき、お風呂のお湯を使いたいと思うのですが、バケツで何度も何度もくみ出しては洗たく機にあけるのは、なかなか大変です(中略)。お風呂の水を高い洗たく機の方に移せるような仕かけのあるホースが出来たらと思います」(40号：昭和32年7月)

「赤ちゃんの着物類、コールテンのこどもズボン、薄地の木綿の肌着のいや、シー

ツ、タオルやネルのねまきなどは、洗って乾くとゴワゴワして、肌ざわりが悪くてこまります（中略）。先日ふと、アメリカの雑誌をみていたら、私が丁度欲しいとおもっていたのと、同じような働きをする薬品が広告に出ていました（中略）。日本でも、こういう薬品が、早く製造されるようになったら、どんなにいいでしょう」（44号：昭和33年5月）

「洗い終わって、さてしぼろうという段になると手まわし式。少し大きいもの、厚いものとなると、相当の力も要り、途中で動かなくなったりしてムシャクシャしてしまいます。アメリカではもう出ているそうですが、自動的にまわるしぼり器があったら、どんなに助かるだろうと思います」（45号：昭和33年7月）

「私どものセンタク機は、毎年冬になりますと排水管的のなかに残った水が凍り、次にセンタクするときに、大変苦勞いたします」（61号：昭和36年9月）

「買って7年になる古びたセンタク機を用いるたびに、シャレたデザイン？の最新式のがほしく『家のはヤケに丈夫で、こわれないセンタク機だわ』と内心パチ当たりなことを考えていた」（61号：昭和36年9月）

「センタク機に湿気はいけないとわかっていても、せまい家ではお風呂場においでいます。上からすっぽりかぶせると、中に全然湿気を入れないというものがあつたらどんなに助かるでしょう」（73号：昭和39年2月）

「センタク機を使うときはどうしても手もまわりもビショビショです。いまのような、紙の本や地図みたいな式の説明書ではすぐ汚くなります。プラスチックの下敷きのようなものにセンタク手順とか実用的な使い方のポイントだけ刷つたのを、ぜひつけてください」（84号：昭和41年5月）

【掃除機】

「電気掃除機のコードが機械の中にまきこまれて、必要な長さだけひっぱれば出てくるようになっていると、近いところをかけるときも、離れるところでも、コードさばきがらくで、苦勞しなくても使えます。その他、ミキサーや、トースター、電気スタンドなど、こうなっていると、体裁もよく、しまいやすくなります」（54号：昭和35年5月）

「昨年10月頃でした。またまた電気掃除機を持って参りました。本当はほしくてほしくてのどから手が出そうだったのですが、でも今度は思い切って持って帰ってもらいました」（59号：昭和36年5月）「スイッチは小さいし、胴についているので、いちいちそのたびにかがまなければなりません。柄のちょうどにぎるあたりに、スイッチがあつたら、どんなに使いよくなることでしょう」（59号：昭

和36年5月)

「小さく、片手で使えて、十分性能のある電気掃除があればと思います」(79号：昭和40年5月)

【食器洗い機】

「ある婦人会のサークルに電気メーカーが食器洗い機を持ちこんで実演してみせてくれたのを見学したことがあります。一度見ただけですが、私はこのメーカーは本当に主婦の立場を考えて、この機械を作ったのかしらと疑問に思っていた(中略)。ものすごく時間がかかります。洗剤で洗って水でゆすいでヒーターで乾かす、1時間はたっぷりかかります」(99号：昭和44年2月)

「食器洗い機には多きに関心を持ち、デパートでも熱心にデモンストレーションをながめていたのです。でも、いま考えてみると、デパートのはきれいなお皿を洗っているのですから、きれいに洗えるのは当たり前だったのですが、そのときは、ずいぶんよく洗えると、口によだれだったのです」(99号：昭和44年2月)

【ガス湯沸器】

「湯沸器だけで風呂をまかなっている我家。浴槽の容積を小さく細長くしたから、時間はまあまあテレビの1時間ドラマを見ている間に冬場でも入れられるからいいとして、問題は総タイルなので、さめていくことと、はじめ熱をとられることは、本当に情けないほど(中略)。沸し湯だったら火力を強めれば何でもないところ、湯沸器なるが故に…(中略)。何といっても夏場はこたえられない。一日中何時でも、何回でも、いとも簡単に汗を流せる」(94号：昭和43年4月)

【テレビ】

「朝起きるとまず時計の代わりに、パチンとテレビのスイッチを入れます。食事のとき、テレビをつけていないと何か忘れたような気持ちになり、つい見ながら食べるくせになってしまっています。テレビの番組の切れ目が時計の代りをし、『これだけみたら買い物に行こう』とか、『夕食の支度にかかろう』と思い思い、つい見てしまいます(中略)。毎朝7時から7時15分以内に主人と弟が出勤しますが、小さざみに出ているテレビの時刻は誠に重宝ですし、その日のニュースはだいたい分かります」(82号：昭和40年12月)

「知らず知らずのうちに家族みんなが完全なる慢性テレビ中毒にかかっているわ

けです。朝、目がさめたら無意識にテレビのスイッチに手が延び、時計のかわりに画面に何時何分まで出る数字で時間を知り、朝の支度にかかります。食事の時には、決まってついているし（みんな、あまり、見てもいないのに）新聞をみながら、家事をしながら、ときどきちらちらとみる習慣がすっかり身についてしまいました。床の中に入ってから、見ていて消し忘れ、夜中に気がつきあわてて消しに起きる事もしばしばです」（82号：昭和40年12月）

【電気ミシン】

「お店の方から『ジグザグミシンがよろしいのではありませんか』とすすめられ、一両日使ってみましたけれども、どうも思わしくなく（中略）、こんどは、電気ミシンにかえていただき、いろいろ使ってみました。初動に大きなうなりをたて、また、こまかな点は使いにくいことがわかりましたので、結局足踏みミシンにかえてしまいました。やはり、旧式でしょうが、一番使いよく便利であることがわかりました」（75号：昭和39年7月）

【コンセント・コード】

「プラグは、どれもコンセントに直角に差し込むようになっています。そのために、使う場所によっては、コードが直角に折れて、そこが傷みやすくなります。プラグをコンセントの面に沿ってペタンと差し込めるようなものを作っただけではありませんか」（53号：昭和35年2月）

「トースターのコードがこわれたので湯わかしのコードを代りに使おうとしましたが、サイズが違ってダメでした。各メーカーが電気器具に同じサイズのプラグやコンセントを使ってくれたらずいぶん助かると思います」（62号：昭和36年12月）

【石油ストーブ】

「たしかにブルーフレーム・ヒーターとありますが、筒の前のところに朱色でラムサとあり、芯を上下させるつまみにもラムサとあり、カタログの一番おしまいにスパニッシュとあります（中略）。その店には、ちゃんと英国製ブルーフレームとマジックで書いて売っていましたが、私の話をきいて店もびっくり、さっそく『英国製』を消すさわざ（中略）。とうとう現金を返してもらいました」（68号：昭和38年2月）

「昭和5、6年頃、布芯上下式のものを使用、たいへん重宝していました。戦後またこの式のものをずいぶん探しましたが、市販品に見当たらず、（中略）ようや

くブルーフレームを発見して、はじめて満足を得たような次第です（中略）」（68号：昭和38年2月）

【住宅・建物】

「ステンレスの流し台を購入いたしました。大変よいもので使いやすいことこの上なしです。まず7月7日に出来上がりました。家中の者、6人総がかりです。私が流し台の前に立ってみると、どうしても高いようで、長男は、これは標準寸法だから、いままでののが低かったのだという、主人はハイヒールでもはいてやれという、私は腰が曲がらなくていいかもしれないと思いました。とにかくこんなうれしいことはありません」（71号：昭和38年9月）

「お湯が適温にわくと、自然にガスが消える装置のついたガス風呂を作ってほしいと思います。そうすれば、わきすぎたりせず経済的です」（52号：昭和34年12月）

「ガス風呂に、ガス釜のように、時間に合わせておけば、ガスの火が消えるタイムスイッチの装置をつけられないものでしょうか」（77号：昭和39年12月）

「自動エレベーターは乗ってから、あわてて注意書を読んでボタンを押さねばならないのでいつもハラハラします。みんな、そんなになれていないのですから、使い方は乗り口の外にも書いておいてください」（85号：昭和41年7月）

【その他】

「赤ちゃんを入れるお風呂の温度とか赤ちゃんの体温を計るときなど、特にそれを痛感します。計りたいものにちょっとさわればパツと出るような温度計がほしいと思います」（62号：昭和36年12月）

「日常の買い物用のかんたんな手押し車がほしいと思います。商店まで遠いといふ数日分あれこれ買って、とてもカサ高になります」（72号：昭和38年12月）

「ジャーのような、マホーお弁当箱があればと、いつも寒い日に思います」（72号：昭和38年12月）

「8ミリ映画機のツマミやスイッチ類に夜光文字をつけてください」（98号：昭和43年12月）

「水道の水のくすりくさいニオイは、お茶やお吸いもののときには困りものです。大げさな口過装置を蛇口につけるのも、流しがせまくなって使いにくい」（74号：昭和39年5月）

表2 第Ⅱ世代の商品・買い物案内

★は商品テスト。

商品種類名等は「暮らしの手帖」に掲載されたものから現在の名称に合わせて一部修正している。

号数	食料品	衣服	家電	その他	出版年月
1号	無添加のオレンジジュース、人工甘味料	丸洗いできる背広	★全自動せんたく機	コンタクトレンズ、圧力なべ、のり付き付箋	昭和44年7月
2号	食用色素、インスタントみそ汁、乳酸菌飲料		★食器洗い機、電球	皿小鉢、水切りカゴ、ファイルとスクラップブック、カラーニス、体洗いブラシ(背中用)、	昭和44年9月
3号	コロッケとハンバーグ	★天ぶら油	★電気掃除機、ジャー	すのこ、台所用洗剤	昭和44年11月
4号		子ども用下着	★電気釜、★食器洗い機	文房具、しょう油つぎ、乾電池	昭和45年2月
5号	マーガリン			グリル付きガスコンロ、センタクハサミ付き小物干し、衣類用染粉、作業手袋	昭和45年4月
6号			★2ドア式電気冷蔵庫、小型アイロン	★消しゴム、アイスクリーム製造器、工作器具	昭和45年6月
7号	アイスクリーム	カパン	★電池カミソリ	流し、包丁とぎ	昭和45年8月
8号	レトルトカレー			★ガスオープン、赤鉛筆、ダイヤモンドゲーム	昭和45年10月
9号	ごはんのカン詰			★毛布、体温計、男の整髪料、工作器具	昭和45年12月
10号			電気ジャー、加湿器、電気便座	★ヤカン、★国語の辞書	昭和46年2月
11号	冷凍野菜、カレールー		卓上スタンド	★テフロン加工のフライパン、ノート、脚立、洗濯用洗剤、缶切り	昭和46年4月
12号	インスタントラーメン		★扇風機	スリッパ、二段ベッド、サインペン	昭和46年6月
13号	スパゲチ、肉類、砂糖		★ミキサー	盆、霧吹き、タンス	昭和46年8月
14号	ドレッシングのびん詰		★二槽式脱水せんたく機、自動照明スイッチ	メラニ食器、ベビーカー、かつおぶし削り、流し台用まな板受け、封筒	昭和46年10月
15号			★せんたく機	ガスレンジ、口紅、おんぶ紐、ビデオカメラ	昭和46年12月

「暮らしの手帖」にみる昭和20年代から平成10年代前半までの日用品と生活意識の変化 37

号数	食料品	衣服	家電	その他	出版年月
16号	チョコレート	婦人既製服	★ハンディクリーナー、ジグザグミシン	床タイル用ワックス、傘、フライパン	昭和47年 2月
17号	ウイナーソーセージ、ティーパック		★蛍光灯	薬の錠剤、インク消し、鉛筆	昭和47年 4月
18号			2ドア式冷蔵庫	石けん、マホーびん、★クーラー	昭和47年 6月
19号	みかん水			シャーペン	昭和47年 8月
20号	冷凍食品		★スチームアイロン	★浄水器	昭和47年 10月
21号	ごはん、玉子焼き			★ガスヒーター	昭和47年 12月
22号		サングラス		洗濯用柔軟仕上げ剤、★ガス湯沸器、セントラルヒーティング、ゴミ箱、鉛筆	昭和48年 2月
23号			★自動センタック機、電気換気扇	飛び出すふで箱、乾電池、ランドセル	昭和48年 4月
24号			冷蔵庫、スチームアイロン	包帯、ジグソーパズル、電卓、缶切り、接着剤、ビデオカメラ、シーツ	昭和48年 6月
25号	豆板醬、和風ねりからし		★換気扇、★スライド映写機、電気時計、携帯蛍光灯、小型乾燥機	★ヘルスメーター	昭和48年 8月
26号	デミグラスソース	Tシャツ	★オーブントースター	電灯付きルーベ	昭和48年 10月
27号			★電気こたつ、ホットプレート	セントラルヒーティング、安全かみそり	昭和48年 12月
28号	冷凍えびふらい		★節電型電気掃除機、現像器	無燐洗剤、湯たんぽ	昭和49年 2月
29号	スキムミルク、たらこの缶詰			★ガス炊飯器、ノート、オマル、折りたたみ椅子	昭和49年 4月
30号	納豆、ゼリー、みりん			じゅうたん、★ショッピングカート	昭和49年 6月
31号	冷凍食品		ハンドミキサー、★スチームアイロン、電気工作器具	ガラスの食器、★ホーローなべ、製氷皿、パフ、庭用ホース	昭和49年 8月
32号		こどもの運動靴	電気加熱鍋	アルミサッシ、大根おろし、ゴムベラ	昭和49年 10月

号数	食料品	衣服	家電	その他	出版年月
33号	野菜	安売り肌着	電子レンジ、 家庭用電気も ちつき機	消火用三角バケツ、椅子、工 作道具、ザル、じゅうたん用 の洗剤、クリームしぼり器、 懐中電灯	昭和49年 12月
34号	パック入り牛 肉		電子レンジ	自転車、ふかし釜、炊事手 袋、スチームブラシ	昭和50年 2月
35号	標準米、ビス ケット		★ヘアドライ ヤー	すり鉢、圧力なべ、ガラス磨 き洗剤	昭和50年 4月
36号	冷凍パイ生地	★レインコー ト	窓用クーラー	タオルかけ、極細サインペン、 セメント、椅子カバー	昭和50年 6月
37号			センタク機	ペンキ、バスタオル、カメラ	昭和50年 8月
38号			卓上用スタン ド	★レンジフード、水溶性ニス	昭和50年 10月
39号	即席赤飯		★オープン	万年筆、化粧品、クレヨン、 つっぱり棒	昭和50年 12月
40号	食用色素、即 席みそ汁、冷 凍わかさぎ		★トースター、 電気乾燥機、 ブラシ型ドラ イヤー、センタ ク機	シャンデリア、★グリル付ガ ステーブル、センタクハサミ 付小物干し、ズボンかけ、音 楽のカセットテーブ	昭和51年 2月
41号	食用色素、冷 凍あんまん	ズボン	オープン、小 型せんたく機、 ミシン	★マホーピン	昭和51年 4月
42号	即席ラーメン、 肉の缶詰		電気冷蔵庫	なべ、食器棚、風呂用洗剤	昭和51年 6月
43号	野菜ジュース		★8ミリ映写 機、タイマー	センタク糊、氷かき器、タワ シ	昭和51年 8月
44号	焼肉のたれ	バック	★掃除機、コ ーヒーメーカー	石けん、トイレ用ブラシ、サ ビ落とし	昭和51年 10月
45号	ウイスターソ ース、冷凍食 品			★石油ストーブ、万年筆、ふ とん	昭和51年 12月
46号	ハンバーグの 素	男性かつら	★保温式電 気炊飯器	石けん入れ、ヤカン、髪切り 用ハサミ	昭和52年 2月
47号	缶詰のコーン スープ	男のバック、 男の靴	目覚まし時計	★グリル付きガステーブル、 軽量カップ	昭和52年 4月
48号		女の傘、ワイ シャツ		ひげそり石けん、ベッド、キャ リーバック、箸おき、皮むき、 包丁、カラー万年筆、テーブ ルカッター、子供用椅子、氷割 り、ペンキローラー	昭和52年 6月
49号	弁当		★じゅうたん 用掃除機、電 動ドリル	バスマット、ふでペン、プライ ンド、スティックのり	昭和52年 8月

号数	食料品	衣服	家電	その他	出版年月
50号	イワシの缶詰	バック	食器乾燥機	★ベビーカー、マホー紅型水筒、	昭和52年10月
51号	麻婆豆腐の素		★ストロボ	★補聴器、障子紙、靴入れ、ピアノカ	昭和52年12月
52号			★加湿器、電気湯沸器	★卓上コンロ、★乾電池式灯油つきボンズ、密封容器	昭和53年2月
53号	缶詰の野菜		★スチームアイロン	トイレットペーパー、瞬間接着剤、センタクハサミ付き小物干し	昭和53年4月
54号	酢		★電気冷蔵庫	油こし器、自転車、シャワー、インク消し	昭和53年6月
55号	アイスクャンデー、冷凍ルーム貝		蛍光灯	折り畳みベッド、ハカリ、裏ごし器、すべらないハンガー、ノコギリ	昭和53年8月
56号	冷凍ピザ		オーブントースター	★ストロボ付きビデオカメラ、サインペン、洗濯糸くずネット、バンソーコー	昭和53年10月
57号	レトルトのご飯	男ものの靴下	★壁取り付け式石油温風ヒーター、電気カーペット	保温用弁当箱、カイロ、	昭和53年12月
58号	缶詰の野菜スープ			★家庭用消火器、時計、肉にき機、コンロ付ガステーブル	昭和54年2月
59号	濃縮つゆの素、油		ズボンプレスサー	★充電式電気かみそり、ふかし釜、★ナイフ	昭和54年4月
60号	粉末オレンジジュース、スパゲチ		クーラー	防水スプレー、傘立て、印鑑入れ、キリ、つっぱり棒、カーテンレール	昭和54年6月
61号	サラダ、バック詰のウナギ、コーヒーゼリー			折り畳み椅子、フィルター付き換気扇、★ペンキ、遮光カーテン	昭和54年8月
62号	ホットケーキミックス		★全自動センタク機	ティッシュペーパー、ハサミ、体洗いブラシ(背中用)、マホーびん	昭和54年10月
63号	塩鮭	セーター		★メガネ、★ガスコンロ、レンジ、計量式米びつ	昭和54年12月
64号	即席みそ汁	おむつ	卓上スタンド、卓上電気鍋	★ガス湯沸器	昭和55年2月
65号	ベーコン、五目ずしの素	乳幼児用の靴	★電気掃除機	シャーペン、ズボンつり	昭和55年4月
66号	アイスクリーム	紳士傘	★電気炊飯器	人工芝、流しのコーナー	昭和55年5月
67号	麦茶	ワイシャツ	★二槽式洗濯機	製氷皿	昭和55年7月
68号		肌着のシャツ		★圧力鍋、トイレットペーパーホルダー、ドライパー	昭和55年9月

号数	食料品	衣服	家電	その他	出版年月
69号	高野どうふ		★石油ファンヒーター	糊付ふすま紙、筆ペン、コルク抜き	昭和55年12月
70号	しょう油		ふく射型ヒーター	★ヤカン、水洗い式電気カミソリ、ゴミ箱	昭和56年2月
71号	チーズケーキ		★オーブン付き電子レンジ、電球	サインペン、せんたくばさみ	昭和56年4月
72号	バター		★電気冷蔵庫	脚立、懐中電灯	昭和56年6月
73号	スポーツドリンク、レトルトカレー			★電動ドリル、シーツ、	昭和56年8月
74号			★壁取り付け式石油温風ヒーター	郵便受け、玄関マット	昭和56年10月
75号				★オートフォーカスカメラ、★マホーびん、魚焼き網、手動式の石油ポンプ	昭和56年12月
76号	冷凍コロッケ、即席ラーメン	おむつカバー	★ホットプレート	水切りかご、温湿度計、万年筆	昭和57年2月
77号	ミートソースの缶詰		★電動ミシン	飛び出す筆箱、安全カミソリ、椅子のカバー	昭和57年4月
78号	ねりごま	洗えるセビロ	★ドライヤー	粉ふるい、冷凍する氷枕、すだれ、子ども用便座	昭和57年6月
79号	ハンバーグ		★壁掛け扇風機	フライパン、アイスボックス、棚板、センタクハサミ付き小物干し、スプレー式洗たくノリ	昭和57年8月
80号	冷凍しゅうまい		★電気炊飯器、太陽熱温水器	背負う用のおんぶキャリー、窓ふき用ゴムベラ、壁の照明スイッチ	昭和57年10月
81号	天然塩	洗えるセーター	★電気乾燥機、卓上保温板	水性ボールペン	昭和57年12月
82号	肉まん		★デジタル式電子血圧計	煙の出ない魚焼き器、折り畳み椅子	昭和58年2月
83号			トイレ温水洗浄器	食器洗いブラシ、キッチンバサミ、クレヨン	昭和58年4月
84号	米、みつ豆の缶詰	ジーパン	★スチームアイロン	瞬間接着剤、泡立て器	昭和58年6月
85号	冷やし中華			★ベビーカー、洗濯洗剤、しょう油つぎ、子ども用の箸、ドアストッパー	昭和58年8月
86号	キャベツの缶詰			★火力調整付きガスコンロ、ガムテープ、皮むき器、びんのフタ明け、ふみ台	昭和58年10月

「暮らしの手帖」にみる昭和20年代から平成10年代前半までの日用品と生活意識の変化 41

号数	食料品	衣服	家電	その他	出版年月
87号	切餅		★ビデオデッキ	鍋、プリントゴッコ、たいやき器	昭和58年12月
88号	カレールー			汚れにくいカーペット、★ヘルスメーター	昭和59年2月
89号			★電子レンジ	ドライバー、弁当箱、修正液	昭和59年4月
90号	たくあんの着色料、イワシの缶詰		★二槽式センタク機	子ども用ハサミ、耳栓、皮靴スプレー、針、ロールカーテン	昭和59年6月
91号	玉子豆腐			★ショッピングカート、高感度フィルム、★双眼鏡、お玉、アルバム、温度計	昭和59年8月
92号	中濃ソース	★パンティストッキング		組み立て家具、★電気カミソリ、キッチンタイマー	昭和59年10月
93号	ゆであずきの缶詰、とうふ		★電気掃除機	背広用のカバン、金づち	昭和59年12月
94号	即席わかめスープ		★電子体温計、CDプレイヤー	サビ落とし、★ラップ、だっこ紐、カーテン	昭和60年2月
95号	ホールトマトの缶詰		★オーブントースター、掃除機	スカートつり、レコードクリーナー、ごますり器	昭和60年4月
96号	冷凍エビフライ		冷蔵庫	バスタオル、自転車カバー	昭和60年6月
97号			★携帯ラジオ	ステンレスのまほうビン、きり吹き、ガラスのコップ、パーベキューコンロ、万歩計	昭和60年8月
98号	ボンゴレソース			★水性ペンキ、折りたたみ傘、防水加工テープクロス、酵素系漂白剤	昭和60年10月
99号	餅		★電気オーブン、★ヘッドホン	椀、バタナイフ、手荒れ用クリーム、家庭用救急酸素	昭和60年12月
100号			★卓上スタンド、コーヒーメーカー	★ガス湯沸器、万能ナベ、金属みがき	昭和61年2月

資料2 第Ⅱ世代の投稿欄からみる生活意識

一部抜粋

【冷蔵庫】

「私もアメリカ式に一週間分まとめて、たっぷり買物をする生活にあこがれを持っていました。でしから、古い冷蔵庫の修理に3万円もかかると聞いたとき、これからは冷凍室を利用して大いに時間を節約できるとよろこんで、新しい2ドアを求めました。でも勢い込んだのもつかの間、たいして利用価値のないことに気が付いたのです。冷凍食品を保存する役目だけで、そういえば上等の肉を買ったのに、冷凍後はひどく味が落ちることにも、いま思い当たったようなわけです」(19号：昭和47年8月)

【炊飯器】

『お宅の炊飯器の調子はいかがですか』『いいですよ』『今なら、どんな型の「ものでも下取りしますから』『でも、調子はいいんですから』『ではセンタク機は…』『センタク機も間に合ってます』。電気店の販売店と母とのやりとりを聞きながら、父と私は顔を見合わせて、声を出さずにクスッと笑う」(2号：昭和44年9月)
「7年間毎日おいしい御飯を炊いてくれた我が家の電気釜が、或る日ブツリと電気が切れてそれっきりつかなくなった。急ぎ電気屋さんへ。『2、3日お預かりします』との言葉に、3日目に取りに行くと、『奥さんこれはもう修繕できませんよ。この製品の部品の製造が打ち切られているのです。電気製品のほとんどが、発売して5年もすると部品の製造を打切ることになっているのです。この頃は使い捨ての時代ですからね』と、申し訳けなさそうに説明してくれた」(16号：昭和47年2月)

「洗米ですが、内釜に傷をつけてはいけけないので、別の容器でとぐ。おしゃもは保温中に入れない。炊きあがってふたをとるときには、必ず湯気といっしょにせずくが落ちます(中略)。12時間も保温すれば、ごはんは黄ばんで味も落ちていきます。1か月使ってみて、こんなに不便なものなら、私はもう冬の間だけお世話になって、夏になれば、また、元の炊飯器を出してきて使おうと思っています。夏ならば冷やごはんでも平気ですから」(47号：昭和52年4月)

「初めてごはんを炊いたのは、小学校6年生頃でした。我家から遥か向うに、戦前から大きなガスタンクが見えていましたが、ガスでごはんを炊くようになったのはずっと後で、しばらく薪で、カマドに釜を載せて炊いていました。ごはん炊

きは、私の自慢でもありました。結婚して初めて、ガス炊飯器を使うようになり、ずいぶん楽になったと思いました(中略)。子供会でカレー大会を行う事になり、カレーは子供たちが作り、ごはんは何人かのお母さんが持寄りという事になりました。みんな花柄や縞や色とりどりの、素敵な炊飯ジャーを持って来ました。その中で我家のは白無地で、いかにも見劣りがして、いよいよ買いかえの時期かなと思いました」(81号：昭和57年12月)

【電子レンジ】

「2年前、私が結婚をする際に、少しでも娘の料理の腕をカバーしてやろうと思う親心からか、冷凍冷蔵庫よりも洗たく機よりも高価な電子レンジを持たせてくれました(中略)。ところが、いざ使ってみると何もかもがうまくいかないのです(中略)。私の使い方がまずいばかりじゃなかったと安心し、改めて、高い買物だったのだなあと、ガックリしました」(34号：昭和50年2月)

【食器乾燥機】

「わが家で食器乾燥機を買ったのは半年前(中略)。買ってまず当惑したのは置き場所。社宅住まいで、畳二帖分しかないわが家の台所には何と大きいカゴ、冷蔵庫の上はジュースとオーブントースターに、米びつの上は電気釜が線量している。ワゴンは、格好の広さだが、狭い台所で、調理台、配膳台の役をしてくれるので、流し横に置きました。驚いたのは、乾くまでの時間が長いこと(中略)。こんなわけで、もう乾燥機としては使わず、ふつうの水切りカゴ同様に使っています」(51号：昭和52年12月)

【電気もちつき機】

「もちつき機がほしいとおもっていましたが、電気製品に大変うたがい深く、じっと待っていたのです。幸にもテストの結果が上々で、市内の金物屋で1万7300円で手に入れました(中略)。もち米はキロ420円、1260円で、みんながおなか一杯たべ、おみやげにもなり、おやつにもなり、ずいぶん安上がりです」(34号：昭和50年2月)

【ジュース】

「TVのCM、新聞広告につられて妹と二人で父にせがみ、新製品の電子ジュース・ミキサーを買ってもらいました。買った当時はめずらしくていろいろなものをためしに作っては家族みんなで飲みましたが、『うまい』といって飲んだ人は一人

もいません（中略）。今では棚の上に置いたままです」（14号：昭和46年10月）
「我家にも、はじめての子供が生まれて半年、離乳食の手はじめに、生ジュースをと思い、ジューサー・ミキサーを買ったのでした（中略）。ふたをはずしてすぐのスリパチ状の濾し器のところは、タワシでよほどタンネンに洗わないと、かすが残ってしまいます」（14号：昭和46年10月）

【ハンドミキサー】

「お菓子を作ることがなにより好きな私は、毎月毎月、今月こそお金が余ったらハンドミキサーを買おう、と思い続けていました（中略）。ほんの5、6分のことだもの、一日中家にいる私にはハンドミキサーは必要ないんだわ、と思いきりがつき、晴れ晴れとした気持ちになって、きょうも汗をかきながらカステラの卵白6コの泡立てをしています」（32号：昭和49年10月）

【ポット】

「マホー瓶を、ちょっとした不注意から落として、壊してしまいました。実家にあった、いただきものの極ありふれたものでしたので、さして悲しみもせず、早速、『ワンタッチで注げる』という最新式のエアーポットを購入。新しいものの好きの夫を大いに満足させました。ところが、使いはじめてみると、イライラすることこの上なしです（中略）。かるく押すだけとは力自慢の人の言葉ではないかと疑いたくなります。朝沸かした湯がポットに残っているのを、夜もう一度ヤカンで沸騰させるために移しかえるのでは、緊張のいる仕事です」（42号：昭和51年6月）

【コーヒーマーカー】

「テレビのCMに何故か心を動かされて、コーヒーマーカーを買う気になった。四角い箱の中に入れた水が、瞬間湯沸器の原理よろしく、細かい管を通してポタポタとコーヒー粉の上にふりかかって、下のポットにコーヒー色をして落ちていく。見ていて結構楽しいがただそれだけのことだ（中略）。こんなオモチャを見ているくらいだったら、サイフォンの方がよほど楽しく、ロマンがある」（45号：昭和51年12月）

【ホットプレート】

「中3の娘が震えながら学校から帰ると、茶の間のコタツの上に早速ホットプレートを持ち出し、ホットケーキの種を流し、芋の輪切りを並べ、カキ餅の断片を並

べる（中略）。朝はパン食のわが家、パンを並べ、卵をポンとおとし、端っこに紅茶ポット、娘の好きな腸詰も、私の好きなキャベツも仲間入り」（28号：昭和49年2月）

【食品】

「現在のところ、食用色素がどのような作用機序により毒性を示すか、また生体内における代謝、排泄については完全に究明されていない。ましてこれらの色素を長期にわたって摂取した場合、いかなる慢性中毒を起こすか全く予知できない（中略）。許可色素を使うことは、＜人間のつくった法律＞には違反しないが、＜大自然の法律＞には、明らかに違反していると私は思う」（3号：昭和44年11月）
「もともと、インスタント食品は好きではなかったの、インスタントラーメンは敬遠していました（中略）。なるほど、食べてみると悪くありません。『熱湯を注ぐだけで召し上がれます』を食べて以来のことですから、ずい分、ラーメンも研究しておいしくしたものだ、と、感心しました」（13号：昭和46年8月）

【洗濯機】

「屋根がつき共同洗濯場として、コンクリートでかためた浅い水槽の中を区切られながら流れている『せんたくがわ』は、子どもも混じって、30人位にぎわうこともあった。そこでは洗濯法は、水源から一番離れた水槽が汚物洗い、次の水槽で石けん洗い、次の水槽ですすぎ洗いという具合に移動して洗う（中略）。『せんたくがわ』はなお健在ですが、淋しくなりました。人は、機会を相手に、挨拶することも、笑うこともなく、黙って一人で選択をしているのでしょう」（3号：昭和44年11月）

「最初はオムツ専用の乾燥機を買う予定だったのですが、どうせ買うなら少々高くとも、長く使える物と思い、ついでに全自動洗濯機もふんばつたのです。が、どうでしょう。タオルケットは、2時間以上かかっても乾かない、電気代がおそろしくなって、途中で物干竿へ（中略）。全自動洗濯機も、脱水時間を長くすればするほど、シワシワになるし、おまけに脱水したものにムラがあるんです」（41号：昭和51年4月）

「我が家でも、こんど買う電気製品は、絶対全自動洗濯機と決めていました（中略）。何でも便利ならいいのではなく、槽から槽に移す時にYシャツの衿や袖などの汚れの落ちにくいところを、もう一度洗える、風呂の残り湯を使える、汚れ具合や生地で区別して洗える二槽式の方が、洗濯機本来の姿なのだと思います」（63号：

昭和54年12月)

【クーラー】

「一昨年のことです。長年の念願がかなって、新居にクーラーを買いました。暮しの手帖を参考に、三菱の『霧ヶ峰』なるほど冷えます。ところが、全館冷房というわけにはまいりません。暑い日中、ムーンとする外気と、子供の出入りのはげしさに、まず健康には、と疑問をいだき、次に電気代の高さにおどろき、一夏中、主人とケンカ腰のクーラー論議」(37号：昭和50年8月)

「大ふんばつしてクーラーを買うことにしたのだが、今年の夏のボーナスの大半をはたいて買うのだから、ぜったいに、使いやすくて、丈夫な製品でなければならない。あれこれとパンフレットを取り寄せて検討した」(61号：昭和54年8月)

「わが家の扇風機にはGボタンというものがあって、とりわけ肌にやさしい風を送り続けて十余年。子供らが外出より帰った時にせいぜい『1』にするくらいで、まずGを使う(中略)。ようやくクーラーが入ってから、クーラーをゆるくゆるく入れて、その中でGボタンの扇風機を首振りで併用すると、クーラーで閉め切った部屋の息苦しさもなく、私は大好きである」(80号：昭和57年10月)

【電話】

「仕事のことで会う人はふたこと目には電話はありますかと言う。勤務先の人たちには私が電話を持っていないのは大変迷惑だという顔をされる。ついに私はよそさまのために電話を引いた」(8号：昭和45年10月)

「2年前の3月、電話架設受付の際の担当員の顔が、いまでも鮮やかに焼きついています。『プッシュホンになさらないんですか』『ではこれです』—と提示されたのがこの番号」(47号：昭和52年4月)

【ベビーカー】

「新型のベビーバギーを使用している人が非常に多いのには内心驚いているが、初めてみたとき、乗せられている赤ちゃんがちょうど車の排気ガスやほこりをまともに受ける高さにあるので、とても非衛生的な感じがした」(15号：昭和46年12月)

「まもなく1才になろうとする長男は、ベビーカーが大好きでぐずっていても、ベビーカーに乗せるとニコニコです(中略)。私はもっと軽く、もっと小さく、持ちやすくならないものかしらと、いつも思っていました(中略)。シートベル

トをちゃんと締めているのに抜け出してしまうということにも驚きました。これから立ち上がるようになると、倒れやすいベビーカーということですし、ケガをさせないよう気をつけなければと思いました」(86号：昭和58年10月)

【カメラ】

「大枚4万円余りも出して、ばかな買物をしたものだ、後悔しきりです(中略)。昭和52年9月、新聞の夕刊に『押すだけカメラの極み、自動焦点カメラがわが国でついに完成した』と、世紀の大発明のように報道されたのです。このような記事にするものに、まちがいはないと信じてしまった私の、なんと愚かだったことか、結果は44枚撮った内、ピントはずれが8枚、15年前に買った安い家のカメラと、たいして写真のできあがりがちがわないのです」(57号：昭和53年12月)「持っているカメラは15年前に買った一眼レフで、私の手になじんでいるが、老眼気味となり、ファインダーが暗いカメラのためにピント合わせに苦労している今日この頃の事、またサブカメラとして、オートフォーカスや喉から手が出るくらい欲しいカメラである」(76号：昭和57年2月)

【パソコン】

「先日、電気製品の展示会を見に行った折、主人が『パソコンを買うか』と言い出したのです(中略)。そのときは買わずに帰ってきましたが、パンフをめくりながら、まだ欲しそうな様子です。私自身も、いまどきパソコンのひとつも知らなくてはだめかな…とか、子どもは早くから慣れ親しんでいた方が良いのかな、などとも思いはじめていたのです。とはいうものの、私自身は、パソコンとは何ぞやなど全く知らなかったのです」(94号：昭和60年2月)

【自動販売機】

「ジュースをはじめとして、いまや、チンガチャンと、おべんとうまで自動販売機で買える昨今である。こうしていると、やがて店先には、ありとあらゆる自動販売機がならび、かんじんの母屋をとられてしまうのではなからうか」(15号：昭和46年12月)

「日本の自動販売機は、えらく巧妙にできています。たとえば、100円玉、新旧50円玉、10円玉のどれも入れても、ちゃんと区別してくれるばかりか、おつりまで自動的に出してくれます。まるで、サーカスなみの離れ業とっていいでしょう」(18号：昭和47年6月)

【住宅・建物】

「家を建てようと考えたとき、目の前にたくさんのプレハブ住宅のカタログがありました。私は一生に一度の買い物と、本を読んだりハウジングセンターに行ったり、現に建てている人に話をきいたりしましたが、宣伝にいうほど、必ずしもよいことばかりではありませんでした（中略）。木造に比し決して安くなく、また表示値段はあくまでも家の本体だけであり、雨どい一つにも別金を払わねばならないこと、少しの変更でも大きな金額をとられる」（20号：昭和47年10月）

「一昨年、おばあちゃんの部屋を150万円程出して、8帖、6帖、洋式便所に風呂場、台所にと改造しました。そのときに、『セントラル・ヒーティングは部屋中暖かになって、便利なものだから作るからね』といえます（中略）。初めの一日目は、できたうれしさと、自慢げに使っておりましたところ、部屋が狭すぎるために、長時間、燃しておりますと、暑すぎてしまい、どうすることもできず、使う部屋は一部屋だけですから、あちこちが暖かくなってくるのがもったいなくなってしまう（中略）、あれから2度目の冬、いっこうに燃す気配もなく、今ではストーブをつけ、コタツに入って白黒テレビを見ております」（23号：昭和48年4月）

【筆箱】

「筆入れは、蓋がきちんとかかれば用が足りるのに、なぜ鍵が必要なのか、今だにわからないけれど、宣伝上手の商法によって1年生40人のクラスに今年の新学期には、『鍵のかかる筆入れ』が7つ、8つと登場したのである。『鉛筆を出して、さあ始めましょう』という度に、その持ち主の何人かが、困ったという顔で、『鍵がみえない』とか、『開かない』とか言い出すのである」（20号：昭和47年10月）

「ハデハデしい筆箱の山に腹立たしい思いでした。一年坊主は『ペンカセ』とコマーシャルを口走り、教育パパにはなりそうにない彼は、『大人が見ても面白い』と興味深げでした。確かにそうです。マジックの小箱です。とても学用品とはいえません」（78号：昭和57年6月）

「筆ペンなる物でカッコつけようと思ったのです。最初に買ってきたものが、軟筆のペン先のもので、さっそく試し書きをしたところ、『なんだ、こんなのサインペンと同じじゃない』と、毛筆タイプのものに買い替えました（中略）。ところがいざ葉書に書いてみると、なんて難しいんでしょう」（70号：昭和56年2月）

【老眼鏡など】

「市役所へ転入とどけに行った（中略）。帰りぎわに記載台を見わたして、あっと

思った。＜ご自由にお使い下さい。使用後は必ずこのケースにもどして下さい＞。老眼鏡が備えつけてあったのです」(21号：昭和47年12月)

「初めて電子体温計が発売されたときは、とびつきました。しかし、メーカーの言うこととちがい、平衡温になるまでの時間が長くなり、また、その精度にも信頼がおけない感じがして(中略)。テルモが発売されたときは、あまり期待していませんでしたが、思いがけずきちんとした商品」(95号：昭和60年4月)

「老人には歩くことが健康のバロメーターと思って、2、3年前、西武デパートの推薦した万歩計を求めましたが、外出以外に身に付けるなど思ってもいなかったのです(中略)。折角求めたものなのだから、大いに活用しようと思い立ちました」(98号：昭和60年10月)

表3 第Ⅲ世代の商品・買い物案内

★は商品テスト。

商品種類名等は「暮らしの手帖」に掲載されたものから現在の名称に合わせて一部修正している。

号数	食料品	衣類	家電	その他	出版年月
1号	カット野菜、昆布、手作りソーセージ		多機能電気炊飯器、ファンヒーター	三脚、タワシ、油温計、ままごとセット	昭和61年2月
2号	レンジ調理用インスタント食品		エアコン	屋外用コンロ、プチナイフ、歯ブラシ立て、浴槽の湯を利用する簡易シャワー	昭和61年4月
3号	そうめんつゆ、はるさめ		★ミキサー	子ども用水筒、メガネのレンズ、ビン洗いブラシ	昭和61年6月
4号	カボチャのスープ			★補聴器、センタクハサミ付き小物干し、バッテリーチェッカー、ビニール袋、	昭和61年8月
5号	スパゲチ、即席する粉			台所のフード、テフロン加工のプライパン、炊事手袋、腕時計型心拍計	昭和61年10月
6号	ビーフシチューの缶詰		★電気乾燥機、食器洗い機、スチームアイロン	保温用弁当箱、ベランダスリッパ、正座用椅子、電気バリカン、	昭和61年12月
7号	オイスターソース		トースター、オープン付き電子レンジ	★カメラ、コンパス、ゴミ箱、ガラス拭き洗剤	昭和62年2月
8号	レトルトカレー		★全自動センタク機、家庭用製パン機	水泳用ゴーグル、修正テープ、ナベ、靴洗い用ブラシ	昭和62年4月
9号	洋酢		★充電式ハンディクリーナー、全自動カメラ	★ビービーケトル、ソースさし、ダートスポーツ・バドミントン・インディアカの器具	昭和62年6月
10号	松茸ごはんの素		★ミシン	魚焼き網、靴カバー、ペンキ、包丁、吸盤フック	昭和62年8月
11号	コーンスープ	保温肌着、外反母趾用の靴	★ファンヒーター	親子井用のなべ、物さし、消しゴム、ミニせいろ、パラボラアンテナ	昭和62年10月
12号	あんまん		★コーヒーマーカー、電子レンジ	おろし金、瞬間接着剤、温水利用の暖房マット	昭和62年12月
13号	粒入りマスタートード		★安全装置付きスチームアイロン、カメラ	焼皿、衣装ケース、クリアファイル、カーテンレール	昭和63年2月

号数	食料品	衣類	家電	その他	出版年月
14号			スチームドライヤー	テント、抗菌加工スポンジ、★温度調整付きシャワー、ハカリ、防水スプレー	昭和63年 6月
15号	冷やし中華	男の靴	コードレスアイロン、ホットプレート、ビデオデッキ	★壁紙、ガラスの器、糸切りばさみ	昭和63年 8月
16号	レトルトのご飯			★浄水器、自転車、だっこ紐、テフロン加工の玉子焼き用フライパン、ホワイトボード、地球儀、靴の洗剤	昭和63年 10月
17号	コンソメスープ、ハヤシライス		★電気カーペット	脚立、筆ペン、糸通し、タオル掛け	昭和63年 12月
18号	皿うどん		電気炊飯器	★マスク、電気カミソリ、マホーびん、トイレブラシ、学習机	平成元年 2月
19号	ピクルス		充電式の小型ドリル	★ガスコンロ、下駄箱、自転車のライト、油こし器、めがね拭き、	平成元年 4月
20号	カレールー、ゼリーの素		★血圧計	包丁、キャリーバック、圧力鍋	平成元年 6月
21号			コードレス電話機、アイロン	エプロン、センタクハサミ付き小物干し、髪拭き用ドライタオル、パーベキューコンロ、茶こし	平成元年 8月
22号	パイ生地、ホウレンソウスープ		卓上スタンド、ホットプレート、カメラ	★ベビーカー	平成元年 10月
23号	ドミグラスソース		★カラーテレビ、電子万歩計	フォークとスプーン、温度計、	平成元年 12月
24号	冷凍春巻		湯沸かしポット、温水电暖房便座	ハンガー、枕、シーツ、なべ	平成2年 2月
25号	中華風スープ		★掃除機	モップ、吸盤フック、ノコギリ、保温調理鍋	平成2年 4月
26号	ピーナッツバター			★撥水加工傘、木のまな板、あかすりタオル、蚊取り線香	平成2年 6月
27号	焼肉のたれ			★クーラーボックス、おねしょシーツ、落し蓋、ポリ袋、ハンガー	平成2年 8月
28号	冷凍うどん		電動歯ブラシ、オープン付き電子レンジ、フィルター付き換気扇	撥水テーブルクロス、ネクタイかけ、茶こし	平成2年 10月

号数	食料品	衣類	家電	その他	出版年月
29号	みりん		★ビデオカメラ、調光器	椅子、★台所用洗剤、胡椒挽き、火鉢、晴雨計、障子紙	平成2年12月
30号	豆板醤		★ホットプレート	包丁とぎ器、ホーキ、台所洗剤、安全かみそり	平成3年2月
31号	ノンオイルドレッシング	ウエストバック	★炊飯器	老眼鏡、天ぷらなべ、組み立て式ベッド、ガムテープ、流しのコーナー	平成3年4月
32号	まぜずしの素	女性の運動靴、レインハット	ラジオ	魚焼きアミ、ドライシャンプー、修正テープ、バスマット、ベルト	平成3年6月
33号		紙オムツ	★洗濯機	すだれ、ベランダの竿受け、カラーリンス、プチナイフ、使い捨てカメラ	平成3年8月
34号	シリアル		リモコン	★冷蔵庫用脱臭剤、★カセットコンロ、炊事手袋、三脚、傘立て、額縁	平成3年10月
35号	豆		血圧計、コードレス留守番電話機、アイロン、携帯用メトロノーム	風呂場用のブーツ、ポット、リヤカー	平成3年12月
36号	チーズフォンデュ		★電気ごたつ、ビデオカメラ	学習イス、トイレットペーパー、毛玉取り器、年賀状ファイル	平成4年2月
37号	ハンバーグ		★トースター付き電子レンジ、カメラ	メガネ入れ、スーツケース、ドライバースセット、電池、風呂場の椅子	平成4年4月
38号	わさび	長手袋		使い捨てコンタクトレンズ、網戸、シャワーヘッド、自転車、水枕	平成4年6月
39号	即席漬物の素	Poloシャツ	小型スピーカー	寝袋、洋服かけ、スリッパ	平成4年8月
40号	ソース焼きそば		おかゆ専用炊飯器、小型プロジェクター	★ガスコンロ、水性ニス、重ねられる容器、ザル、皮むき器、メガネフレーム	平成4年10月
41号	鶏がらスープ		★ふとん乾燥機	分別ゴミ箱、住所録、シャワーラック、ゴム手袋、焼きいも器	平成4年12月
42号	ビーフシュー	パンツ	★体重計、MDプレーヤー	鍋、収納用ラック、包丁、自転車チェーン、脚立	平成5年2月
43号	冷凍味付けごはん、みそ	レインウェア		★アイロン台、センタクハサミ付き小物干し、CDクリナー、蛍光灯の器具	平成5年4月
44号	杏仁豆腐、香り七味		体温計、鼻毛切り	絵具、遮光カーテン、すし桶、薬の飲み忘れを防ぐケース、クリップ付きマグネット	平成5年6月

号数	食料品	衣類	家電	その他	出版年月
45号	パンに塗るチーズ、ゴマ油	杖	★電気掃除機	フッソ樹脂加工のハサミ、自転車のライト、ズボンつり、メガネ洗浄機	平成5年8月
46号	赤飯		カメラ	★両面焼きの魚焼き専用機、高枝切りバサミ、コーヒーフィルター	平成5年10月
47号		形状記憶ワイシャツ	オープン付の電子レンジ	筆ペン、しみ抜き剤、くもらない鏡、撥水エプロン	平成5年12月
48号	冷凍ラーメン	形状記憶ワイシャツ	アイロン	便箋、フライパン、傘、窓拭きワイパー、照明スタンド、風呂の水を洗濯機に移すポンプ	平成6年2月
49号	ミートソース		★充電式カミソリ、★携帯ラジオ	再生紙のティッシュペーパー、だっこ組、便座シート、水切りカゴ、糊	平成6年4月
50号		パンティストッキング		落ちにくい口紅、漂白剤、保温水筒、散水ノズル、ビン空けの道具	平成6年6月
51号	バジリコのペースト			また板、折りたたみベッド、屋外用カセットコンロ、双眼鏡、補聴器、洋式トイレの手すり、かみそり、アイロンのスプレー糊	平成6年8月
52号	しょう油	靴下	立体写真が写せるカメラ	椅子、★ペンキ、常備灯、ゴムべら、自転車の空気入れ、ドライ衣類用の洗剤	平成6年10月
53号	オニオンスープ、スコーン		★石油ファンヒーター	椅子、おろし器、ハーモニカ	平成6年12月
54号	ワンタン		トースター付きオープン、携帯電話	椅子、弁当箱、魚のうろこ取り、子ども用補助便座、アルバム、補助錠	平成7年2月
55号	肉まん		★IH炊飯器	音声付きのおもちゃ、ピンセット、アイロン台、老眼鏡、スリッパ、ハンコ、床用ワックス	平成7年4月
56号	レトルトカレー	帽子	冷蔵庫	体洗いブラシ(背中用)、ファイル	平成7年6月
57号	油、低温殺菌牛乳	スニーカー		かき氷製造器、オブラート、自転車、冷たいパンダナ、ペンライト	平成7年8月
58号	冷凍餃子		★液晶ビデオカメラ	酸素吸入器、充てん補修材、車イス、写真現像、糸、床拭き	平成7年10月
59号	オリーブ油、炊き込みご飯の素		★電動自転車、オイルヒーター、PHS	トンガ	平成7年12月

号数	食料品	衣類	家電	その他	出版年月
60号	冷凍いもコロ ッケ		リモコン、風 呂用温水浄化 システム、ウォ シュレット	電磁調理器に使える土鍋	平成8年 2月
61号	特殊卵、煮 魚、香辛料		食器洗い乾燥 機、電気カミ ソリ、振動式 目覚まし時計	ペン、ボタンカバー、大きな 活字の辞典	平成8年 4月
62号	カニ缶、ウー ロン茶	早く乾く運動 靴	★掃除機、脂 防率計	ホッチキス、歯間ブラシ、水 に流せるティッシュペーパー	平成8年 6月
63号	杏仁豆腐、エ スニック調味 料		ドラム式乾燥 洗たく機、ト ースター付き オーブン、延 長コード	フィルム、パンソウコウ、流し の水切りラック	平成8年 8月
64号	冷凍シューマ イ		節水型全自 動洗たく機、 PHS、湯沸か しポット	つつ張り棒、歯磨き剤	平成8年 10月
65号	ハッシュドビ ーフ		★空気清浄 機	枕	平成8年 12月
66号	袋入りおでん		テレビ	床暖房、レコード、傘、ふき こぼれない鍋、いびき防止 用品、シャワーフック	平成9年 2月
67号	乾物、サルサ		風呂用温 水 浄化システム、 フードプロセ ッサー	★家庭用生ごみ処理機、油 ひき、テプラ	平成9年 4月
68号	海藻の乾物	サスペンダー	アイロン、体温 計	めがねチェーン、お風呂のす べり止めマット、セメント	平成9年 6月
69号	乾物、中国味 噌		カラーコピー 付きファック ス	★浄水器、組み立て家具、 ナベ、	平成9年 8月
70号	ワッフル、麩と ゆばの乾物、 焼き魚			洗えるふとん、手作り陶器用 粘土	平成9年 10月
71号	ココア、乾物、 歯磨きガムや 飴			充電式丸ノコ、皿立て、消え る書道液、栓抜き、台拭き	平成9年 12月
72号	塩、レトルトの 丼物		ミシン、婦人 体温計	薬、ラップ、眼鏡、接着剤、 物干し台、充電用ドライパー、 額縁	平成10年 2月
73号	パイ生地		IH 炊 飯 器、 MD プレーヤ ー、ホットプレ ート	シャワーノズル、スリッパ	平成10年 4月
74号			デジタルカメ ラ	★UV化粧品、チーズカッタ ー、電動ドライバー	平成10年 6月

号数	食料品	衣類	家電	その他	出版年月
75号	カレールー、コチュジャン		クリップ式蛍光灯	脚立	平成10年8月
76号		自転車用レインコート	家庭用緊急通報システム	双眼鏡、スプレー塗料、靴の中敷き、ハンドソープ	平成10年10月
77号	バック詰めのご飯、油	靴、長靴	掃除機、PHS	焼き網洗いのブラシ、スティックのり、封筒、シャーペン	平成10年12月
78号	小籠包		洗たく機、センサー式照明	ゴミ箱	平成11年2月
79号	冷凍スパゲティ			圧力鍋、旅行用携帯空気枕、鉛筆削り	平成11年4月
80号	冷麺		MDコンボ、風呂用温水浄化システム	制汗剤、針、ルーペ、三枚刃カミソリ、	平成11年6月
81号			耳式体温計、自動水やり機	物干しスタンド、コップ、ベビーガード各種	平成11年8月
82号			電動自転車	チャイルドシート、コンタクトレンズ、キッチンバサミ、ハカリ、布の消臭剤	平成12年10月
83号			ポット	チタンのフライパン、グリル付きガスコンロ、電子レンジ用むし器	平成12年12月
84号	冷凍グラタンとドリア		★普通紙ファックス、掃除機	マーカー、老眼鏡、カッター、スポンジたわし	平成12年2月
85号	キムチ		血圧計、DVDプレーヤー	氷枕、しゃもじ、食器洗い、フライ返し	平成12年4月
86号	レトルト食品、低脂肪生クリーム	ゴムの長靴		★チャイルドシート、延長コード	平成12年6月
87号			掃除機、消費カロリー付き万歩計	中華鍋、散髪用ケープ	平成12年8月
88号		保温肌着、ウイッグ	掃除機、スチームプレート	防水時計	平成12年10月
89号	プリン		電子レンジ、デジタルテレビ	カメラのレンズ、CD	平成13年12月
90号	赤飯		電子辞書、風呂用暖房器	ひげそり用ジェル、照明付ルーペ、水筒	平成13年2月
91号	ビーフシチュー		デジタルカメラ、センサー式防犯通報装置、携帯電話	バスマット	平成13年4月
92号	ぬか漬けの素		デジタルカメラ、受話器	化粧品成分表示、ヤカン、ボールペン、除湿剤	平成13年6月

号数	食料品	衣類	家電	その他	出版年月
93号	韓国風冷凍チ ャーハンとお 好み焼		携帯電話	日傘、フードプロセッサー、 タンス	平成13年 8月
94号	おこわ		食器洗い乾燥 機	ユニバーサルな文房具、布 の接着剤、地図	平成13年 10月
95号	米		洗たく機	ホルムアルデヒド除去剤、お 盆、ループ、グリル用焼き網、 シングルレバー水栓、	平成13年 12月
96号	ごまだれ		洗たく機	ドックフード、自転車	平成14年 2月
97号			音波歯ブラシ、 DVDレコーダ ー	防汚性のカーペット	平成14年 4月
98号			ノンフロン冷 蔵庫	テント、乾電池、ペンの補充 用インク、穴あきお玉	平成14年 6月
99号		脱着しやすい ズボン	冷蔵庫、電気 カミソリ	ざる、水筒、虫よけスプレー	平成14年 8月
100号	無洗米、レト ルトカレー			一筆箋、すべり止めシート、 耳栓、入れ歯洗浄剤	平成14年 10月

資料3 第Ⅲ世代の投稿欄から見る生活意識

一部抜粋

【冷蔵庫】

「我が家の台所を新築したのを機会に、冷蔵庫も最新のものにかえたいと、姉に相談したら『特定フロンの冷蔵庫のほうが性能がいいそうよ、いまなら、まだ売っているから、いそいで買いかえたら』といわれてその気になっていました（中略）。いま使っている冷蔵庫はフロン規制後でも修理できることもわかり、わたしたちがいま買いかえれば、捨てる冷蔵庫の中につまっているフロンがどうなるかも心配になりました。『いまずぐ捨てるより、フロン回収の見通しがたってから、買い換えたほうがいいね』と、夫と話し合ったところです」（57号：平成7年8月）

「購入してもう10数年になる冷蔵庫ですが、このところ、なんとなく冷えてくれません。修理を頼んだところ、コンプレッサーの寿命で、交換部品もないとのこと（中略）。ノンフロン冷蔵庫が、これからの選択ということがよく分かりました。ノンフロンは、代替フロンより、約1万円高いのですが、売り場で見ると、10万円ちょっとでした（中略）。さっそく購入することにしました」（99号：平成14年8月）

【炊飯器】

「昨年暮、訪ねてきた電気屋さんに、我家の電気釜はそろそろ20年近くなるんだけど、半ば自慢げにはなしたら、今はとても便利なものがありますよ、古くなると電気代も多くなるしとよく解らない理由で買い替えを薦められた（中略）。その外側の意匠の多様さと共に、早炊き、玄米、おかゆ、今の時刻、取消、予約呼出、メニューなどなど、表示の多いのに驚いた（中略）。もし、求めるにしてもなんのしかけもない電気釜にしよう」（2号：昭和61年4月）

【ポット】

「『重いポットを持ち上げなくても、中のお湯が注げる』のが魅力で買った我が家のエアポット2リットル入り。家計簿を見ると、3年前の年末セールで購入。2900円は多分割安品です（中略）。大事な安全装置でも、我が家のは抜群、レバーを使うなどして細かい配慮があり、何かホノボノと温かいのを感じます」（19号：平成元年4月）

「結婚して10年、我が家には、1リットル入の小型マホービンしかありませんで

した（中略）。その間、『押すだけ』とか『本体が回る』というものが欲しいと思った時期もありましたが、とにかく狭くて、コンパクトなアパート生活では、このマホービンが最も使い勝手が良かったのです。そして、念願のマイホームを手に入れ、ささやかなぜいたくを、と臨んだ電気ポットでしたが、私は勘違いをしていたようです。電気コードを差し込まない限り、保温も、お湯をそそぐこともできないということで、今の我が家には必要ない物だと納得しました」（25号：平成2年4月）

【洗濯機】

「結婚以来使っていたセンタク機がこわれて、ちょうど買いかえたばかりのとき、『ファジィ型全自動センタク機』の記事がでました。しかも、とりあげているのが、私が買ったのと同じナショナルのニューロ・ファジィです」（34号：平成3年10月）
「ドラム式洗たく機は、サンヨーでも売り出したので、息子がボーナスで買ってあげようかと言っていました（中略）。15年使った全自動洗たく機は故障が多くて、もう限界です。うず潮2.8キロ、315ワットです。育ち盛りの息子2人、計4人、家族で毎日お世話になりました。1日3回も働きました。いま、私一人分の洗たくをするのに、これより大きい必要はないのですが、節水のついた新式は大きいばかりです」（64号：平成8年10月）

「物を捨てられぬ世代の代表は昭和1ケタでしょうが、何かの会合のときに、『思いきって捨てようとしては又しまいこんでしまう』という話が出て、皆、同じことをしているのだなおかしくなりました。あのもの不徳の時代の生活が頭にしみこみ、からだ覚えていてのでしょう」（48号：平成6年2月）

【電気カミソリ】

「わが家にはこの4月、新社会人となる息子がおり、何かプレゼントしてスタートを祝ってやりたいと考えていたからです。プレゼントは、この充電式カミソリに決めました」（50号：平成6年6月）

【電動歯ブラシ】

「なんでも欲しくなる性格ですが、この電動歯ブラシにはちょっと手が出せないでします（中略）。ところが右手にケガをし、歯みがきがしづらく、口すすぎ程度に左手でやっていました。それを見かねてか夫が、28号にくわしく出ていたよと、電動歯ブラシを買うことをすすめます（中略）。もし手磨きをしなくなっ

たら、なぜか私には不安な気持ちがわきおこってきます。私は、手が十分使える間は、電動歯ブラシにたよらず、自分の健康は自分で守っていきたいと思います」(29号：平成2年12月)

【カメラ】

「あちこちで、カメラを構えたお母さんたちが写真をとります。ピカッ、ピカッ…。私も、バックの中から買ったばかりのカメラを取り出しました(中略)。広角の方で、クラス全員と、そして望遠で、娘をグンとアップにしたのと…私だけの記念写真です。2焦点カメラを買って、本当に良かった…。なんだか、私にとって忘れられない入学式になりました」(8号：昭和62年6月)

「初めてデジタルカメラという商品を知ったのは、年賀状の束にまじる妙な写真をみたときでした。色もわるくてピントも甘い…いったいあれはなんだ、そう友人に聞いた時の返事が『デジタルカメラで撮った』ということだったのです(中略)。これから我が家の大蔵大臣に、デジタルカメラ購入の交渉を申し込むつもりです」(75号：平成10年8月)

【ビデオカメラ】

「カメラは期待以上のすばらしいものでした。8ミリテープというのは、うちのビデオと方式が違うから不安で(中略)、あんな小さなテープで2時間も写せることにびっくりしました」(30号：平成3年2月)

【電動自転車】

「9年ほど乗りつづけたスクーターの買い替えときに、ホンダの電動自転車が発売になり、年齢のことも考えて、それに乗り替えた。バッテリーの取り外し可能が、その時点ではヤマハに先行していたし、取扱い店が、充電器はサービスにと事実上の値引をしてくれたからだ(中略)。毎日の買い物と雑用、週一回5キロ先の植物園に出かけるために乗る」(60号：平成8年2月)

「電動自転車に乗り始めて1年余り、向かい風もラクラク、重い缶ビールを後ろにのせても、軽くペダルを踏み、まるで誰かに背中を押されているかのように快適運転です(中略)。充電の不便さと耐用年数の短さ、そして意外に高価なこと。車体の重さは69歳の母が悲鳴を上げるほどで、横断歩道の坂道はかなりの力を要します」(83号：平成12年12月)

【パソコン】

「永年にわたって便利にしてきたワードプロセッサに少し飽きてきた昨春、世間なみにパソコンを購入しました。脳が固くなってからいじり始めたからだけではないでしょうが、なかなか若い人のように自在に操るところには未だ至っておりません」(78号：平成11年2月)

「息子たちが夢中になってやっているインターネットを、始めは『何やってるの、どうするの』と覗いているだけでしたが、私もやってみたくになりました。半年ほど前、一念発起して駅前のシニア向けのパソコン教室に通い始めました。どうやらマウスの操作もマスターし、インターネットでいろいろなサイトを覗く楽しみもでき、家事のあいまに本屋さん、輸入雑貨や家庭用品のホームページを開いて擬似ショッピングをするのが日課のようにになりました」(92号：平成13年6月)

【電子辞書】

「4、5年前まで、夫のお下がりのワープロを愛用していた。原稿を書くにも手紙を書くにもとても便利で、調子にのって使っていた。ところがある日、自筆で手紙を書こうとして、簡単な漢字が書けず、なぜと自問した(中略)。電子辞書を買おうと思ったが、いざお店に行くといろいろとありどれを買おうか、まよった(中略)。私の第一条件の拡大機能が付いていて、画面の文字ができるだけ大きくなる機種はどれか。鉛筆でチェックしながら一つの機種に絞った。あとは、お店に行って、手にとってみなくては」(91号：平成13年4月)

【電話】

「(コードレス電話) 我が家でも実は話題になっていましたが、欲しがっていたのは娘や息子のほうで、夫は、誰かに聞かされたらしく、あれは外国製の電波の強いのでないと実用にはならんのだ、と乗り気ではありませんでした。私はというと、正直いってよくわからないまま、なんとなく便利そうだなと思っていました(中略)。大きな声を出せば家中聞こえるような我が家では、費用のかかる割にはたいして便利にもならない、ということもわかりました」(22号：平成元年10月)

「携帯電話やポケベルなど、絶対にもちたくないものです。普通の電話なら居留守が使えます。しかし携帯電話では、居留守が使いにくくなります。以前、修学旅行の自由行動の時間に、生徒にポケベルを持たせるという話を聞いたことがありますが、これでは生徒はたまらないでしょう」(55号：平成7年4月)

【太陽熱温水器】

「実は、我が家も5年前くらいから夏の中掃除をしています。家具の移動、タミ上げはしませんが、冬中お世話になった布とんなど、太陽熱温水を利用して洗います」（16号：昭和63年10月）

【補聴器など】

「補聴器というと、あの箱型が目に見え、何となくイヤだなと、二の足をふんでいました。たまたま暮しの手帖で、いま一番新しい補聴器という『カナル型』を知りました。性能はもう一つ、というところらしいですが、大きさが、小さくて耳の中へ入ってしまっても目立たないほど、というのはとても魅力です。モデルさんの写真を見て、こんなに小さいのなら、私もつけてみようかとおもいました（中略）。今年の暮れのボーナスを大奮発して、一つ買おうかなと考えているところです」（5号：昭和61年10月）

「数年前に娘夫婦に補聴器を買ってもらったことがあります。正直なところ、失望と落たんでした（中略）。さいわい、娘の夫がやさしい人で、なんとか先生をさがして連れていってくれる、といってくれているそうです。いまなら、まだ補聴器なしでもなんとかやっていけますので、いまのうちに再挑戦しておかなくてはという気持ちです」（52号：平成6年10月）

「我が家にも小型スピーカーが鎮座することになりました（中略）。老父のために、わが家のCDウォークマンにつなげるような小さなスピーカーがあったら、と思っていました（中略）。父は目をして満足そうに聞き入っています。ヘッドホンをイヤがっていた父に、おあつらえむきのプレゼントになったようです」（40号：平成4年10月）

【電子血圧計】

「高血圧は足音をしのばせて、忍び寄ってきていた。上が160、下が98という血圧は、確かに高血圧です。ショックでした（中略）。早速、息子に血圧計を買ってきてもらいました。はじめて使う器械ですが、息子を横に説明書を読むと私にも使えそうな感じです」（51号：平成6年8月）

【老眼鏡】

「老眼鏡のお世話になること8年。これまで眼医者さんが紹介してくれたメガネ屋でバリラックスを含めて5つ作りました。ねだんは平均4万円（中略）。新橋

のディスカウントショップを教えてもらい、行ってみると、なるほど、回転式のスタンドに既製の老眼鏡がズラリと並んでいます。ロマンスグレーの紳士と並んで、かたっぱしからかけてみて細いチタンフレームの+2.5というのに決めました。その間は、店の人は知らん顔ですから気楽です。デザインもすっきりしているし、乱視も少しあるといわれていたのに、じつによく見えてねだんは2000円。仕事場用と家用に2つ買いましたが、それでも4000円です。軽くて、かけ心地はいいし、おかげでメガネ、メガネと神経を使わずにすむようになり、うれしい限りです」(32号：平成3年6月)

【脂肪率計】

「ある朝、デパートの広告を見て、即、注文しました。私に、『そんなものやめといたら』と言った夫は、ヘルスメーターが届いた日から、朝測り食後に測り、風呂上りに測るほどの愛好家になりました(中略)。脂肪率計を買ったおかげで、家族の中で健康に関する話題がふえればと思っています」(63号：平成8年8月)